



Your Reliable Partner

VT7

Socket 478 システムボード
ユーザーマニュアル

著作権と補償について

このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なく変更される場合があります。本マニュアルの作成には万全を期しておりますが、万一誤りが合った場合はご容赦願います。

本製品の特定用途への適用、品質、または商品価値に関して、明示の有無に関わらず、いかなる保証も行いません。このマニュアルや製品上の表記に誤りがあったために発生した、直接的、間接的、特殊な、また偶発的なダメージについて、いかなる保証も行いません。

このマニュアルに記載されている製品名は識別のみを目的としており、商標および製品名またはブランド名の所有権は各社にあります。

このマニュアルは国際著作権法により保護されています。本書の一部または全部を弊社の文書による許可なく複製または転用することは禁じられています。

マザーボードを正しく設定しなかったことが原因で発生した故障については、弊社では一切の責任を負いかねます。

目次

| | | |
|--------------|--|------------|
| 第 1 章 | はじめに | 1-1 |
| 1-1. | 機能と仕様..... | 1-1 |
| 1-2. | レイアウト..... | 1-3 |
| 第 2 章 | ハードウェアのセットアップ | 2-1 |
| 2-1. | マザーボードのインストール..... | 2-1 |
| 2-2. | Pentium® 4 CPU およびヒートシンクサポート台の取付け..... | 2-2 |
| 2-3. | システムメモリの取付け..... | 2-3 |
| 2-4. | コネクタ、ヘッダ、スイッチ..... | 2-4 |
| | (1). ATX 電源入力コネクタ..... | 2-4 |
| | (2). FAN コネクタ..... | 2-5 |
| | (3). CMOS メモリクリアリングヘッダ..... | 2-6 |
| | (4). ウェークアップヘッダ..... | 2-7 |
| | (5). 前面パネルのスイッチとインジケータ接続..... | 2-8 |
| | (6). 追加 USB ポートヘッダ..... | 2-9 |
| | (7). 内部オーディオコネクタ..... | 2-10 |
| | (8). 加速式グラフィックスポートスロット..... | 2-10 |
| | (9). フロッピーディスクドライブコネクタ..... | 2-11 |
| | (10). IDE コネクタ..... | 2-12 |
| | (11). シリアル ATA コネクタ..... | 2-13 |
| | (12). システム管理バスヘッダ..... | 2-14 |
| | (13). 状態インジケータ..... | 2-15 |
| | (14). 背面パネルの接続..... | 2-16 |
| 第 3 章 | BIOS について | 3-1 |
| 3-1. | SoftMenu Setup..... | 3-2 |
| 3-2. | Standard CMOS Features..... | 3-4 |
| 3-3. | Advanced BIOS Features..... | 3-7 |
| 3-4. | Advanced Chipset Features..... | 3-10 |
| 3-5. | Integrated Peripherals..... | 3-14 |
| 3-6. | Power Management Setup..... | 3-18 |
| 3-7. | PnP/PCI Configurations..... | 3-21 |

| | | |
|-------|---|------|
| 3-8. | PC Health Status | 3-23 |
| 3-9. | Load Fail-Safe Defaults | 3-25 |
| 3-10. | Load Optimized Defaults | 3-25 |
| 3-11. | Set Password | 3-25 |
| 3-12. | Save & Exit Setup | 3-25 |
| 3-13. | Exit Without Saving..... | 3-25 |
| 付録 A. | VIA 4-in-1 ドライバのインストール..... | A-1 |
| 付録 B. | オーディオドライバのインストール..... | B-1 |
| 付録 C. | LAN ドライバのインストール..... | C-1 |
| 付録 D. | VIA USB 2.0 ドライバのインストール..... | D-1 |
| 付録 E. | シリアルATA RAID ドライバのインストール..... | E-1 |
| 付録 F. | ABIT EQ (Hardware Doctor ユーティリティ) | F-1 |
| 付録 G. | FlashMenu (BIOS 更新ユーティリティ) | G-1 |
| 付録 H. | トラブルシューティング..... | H-1 |
| 付録 I. | テクニカルサポートの受け方について..... | I-1 |

第1章 はじめに

1-1. 機能と仕様

1. CPU

- 800MHz、533MHz、400MHz (ノースウッド専用)システムデータベースを搭載した Intel Pentium 4 Socket 478 プロセッサをサポート
- Intel ハイパースレッドテクノロジー (Hyper-Threading Technology) をサポート

2. チップセット

- VIA PT880 + VT8237
- 高速ユニバーサルシリアルバス (USB 2.0) をサポート

3. メモリ

- 4つの184ピンDIMMソケット (アンバッファ、非ECCDIMM)
- Dual DDR 400/333/266 (最大4GB) 対応

4. AGP

- 加速式ポートコネクタが AGP 8X/4X インターフェイス(0.8V/1.5V)をサポート

5. シリアル ATA 150 RAID

- サウスブリッジによる RAID 0/RAID 1 機能搭載のシリアル ATA 150MB/秒データ転送速度オンチップ2チャンネル

6. オーディオ

- オンボードの6チャンネルAC97CODEC
- プロ仕様のデジタルオーディオインターフェイスのS/PDIF入出力をサポート

7. LAN

- オンボード10/100M LAN コントローラ
- 10/100Mb 操作サポート ACPI 及 Wake on LAN

8. システム BIOS

- SoftMenu™ テクノロジーが CPU パラメータを設定
- Advanced Configuration Power Interface (ACPI) をサポート

9. 内部 I/O コネクタ

- 1x AGP スロット
- 5x PCI スロット
- 1x フロッピーポートが 2.88MB までサポート
- 2x Ultra ATA 133/100/66/33 コネクタ
- 2x シリアル ATA 150 コネクタ

- 2x USB 2.0 ヘッダ
- 1x CD-IN、1x AUX-IN ヘッダ

10. 背面パネル I/O

- 1x PS/2 キーボード、1x PS/2 マウス
- 1x シリアルポート コネクタ、1x パラレルポート コネクタ
- 1x S/PDIF インコネクタ
- 1x S/PDIF アウトコネクタ
- 1x AUDIO1 コネクタ (リアレフト / リアライト、センター/サブウーファ)
- 1x AUDIO2 コネクタ (Mic-In、ラインイン、フロントレフト/フロントライト)
- 2x USB 2.0 コネクタ
- 2x USB 2.0、1x RJ-45 LAN コネクタ

11. ABIT 開発元

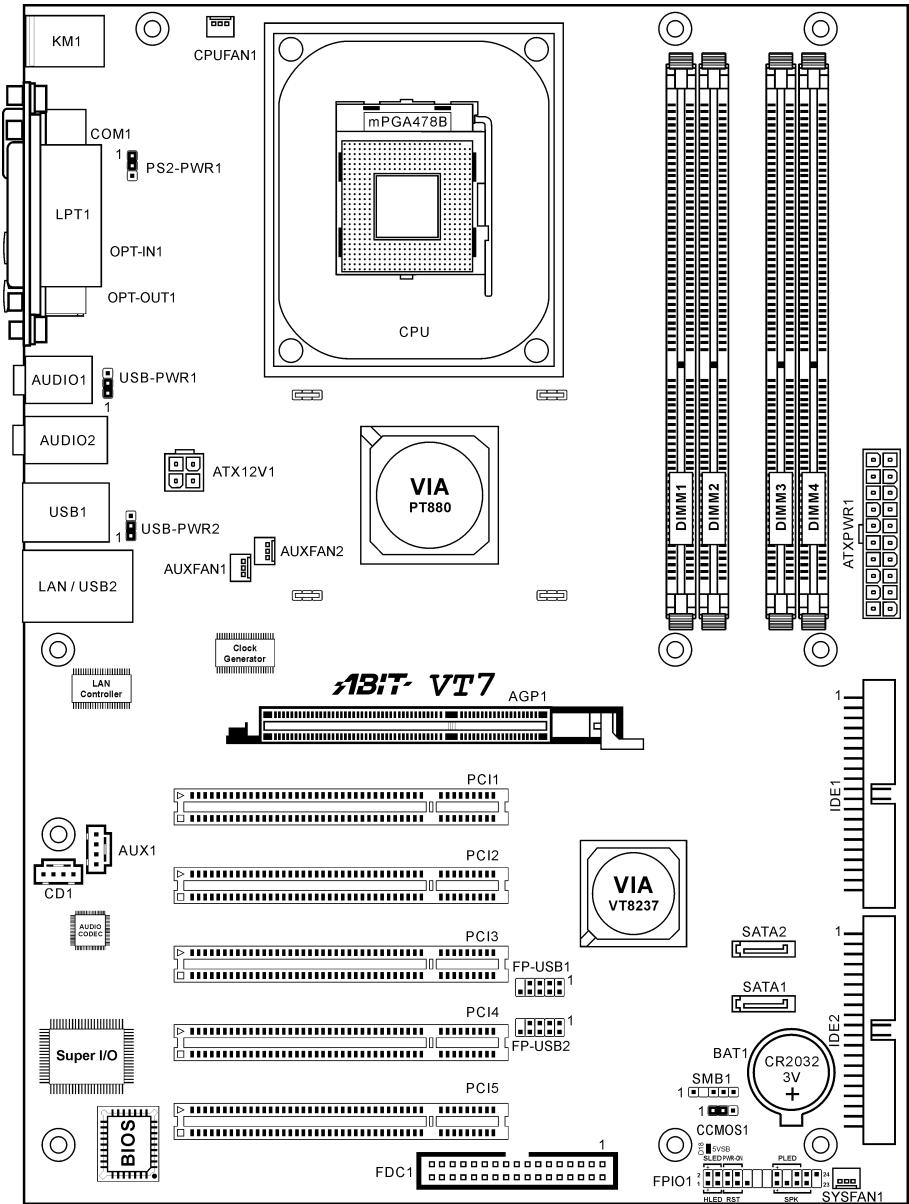
- ABIT SoftMenu™ テクノロジー
- ABIT TweakGuard™
- ABIT CPU ThermalGuard™
- ABIT FAN EQ™
- ABIT FAN Secure™
- ABIT Flash Menu™

12. その他

- ATX フォームファクタ (305 x 225 mm)
- ハードウェア監視 – ファン速度、電圧、CPU とシステム温度および他のデバイス温度監視用のサーマルヘッダを含む

* 本書に記載されている仕様および情報は予告なしに変更されることがあります。

1-2. レイアウト





第2章 ハードウェアのセットアップ

取付けを開始する前に：ATX12Vの電源装置のスイッチをオフにする(+5Vスタンバイ電源を完全にオフにする)、または取り付ける前に電源コードを外す、またはコネクタやアドオンカードのプラグを抜く、以上のことを忘れないでください。さもないと、マザーボードコンポーネントまたはアドオンカードが故障したり破損する可能性があります。

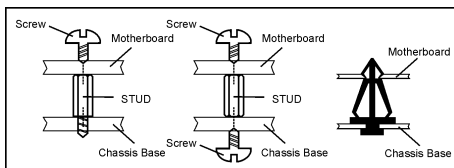
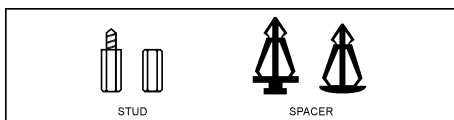
2-1. マザーボードのインストール

ほとんどのコンピュータシャーシには、マザーボードを安全に固定し、同時に回路のショートを防ぐ多数の穴のあいた基板があります。マザーボードをシャーシの基板に固定するには次の2つの方法があります。

1. スタッドを使用する
2. スペーサーを使用する

原則的に、マザーボードを固定する最善の方法はスタッドを使用することです。スタッドを使用できない場合にのみ、スペーサーを使ってボードを固定してください。マザーボードを注して見ると、多くの取り付け穴が空いているのがわかります。これらの穴を基板の取り付け穴の位置に合わせてください。位置をそろえた時にネジ穴ができれば、スタッドとネジでマザーボードを固定できます。位置をそろえてもスロットしか見えない時は、スペーサーを使ってマザーボードを固定します。スペーサーの先端をもってスロットに挿入してください。スペーサーをすべてのスロットに挿入し終わったら、マザーボードをスロットの位置に合わせて挿入してください。マザーボードを取り付けたら、すべてに問題がないことを確認してからコンピュータのケースをかぶせてください。

注意：PCBサーキットのショートを防ぐために、金属製ボルトとスペーサーがすでにシャーシ台にしっかり取り付けられ、マザーボード上に一直線に合うような取り付け穴がない場合、それらのボルトとスペーサーを取り外してください。



2-2. Pentium® 4 CPU およびヒートシンクサポート台の取付け

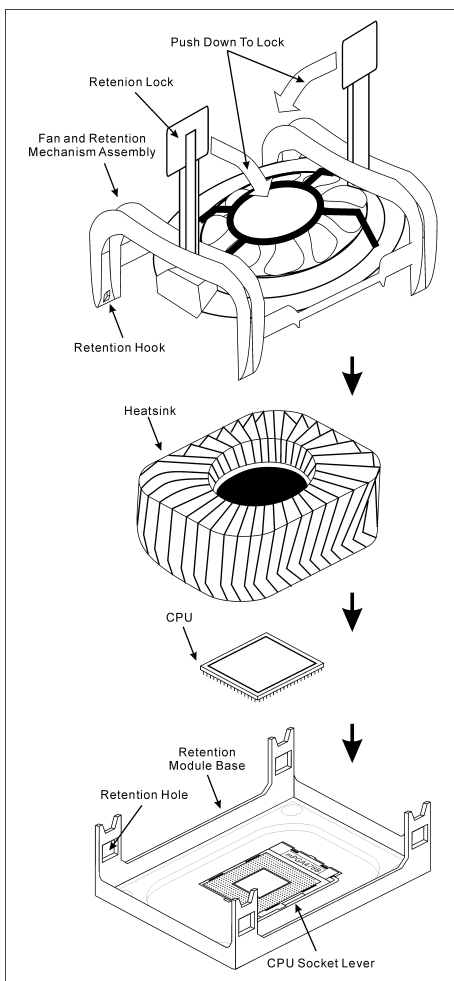
このマザーボードは ZIF (ゼロインサージョンフォース) Socket 478 を提供して Intel® Pentium® 4 CPU をインストールします。お買い上げになった CPU には、ヒートシンクと冷却ファンのキットが付属しています。付属していない場合、Pentium® 4 Socket 478 向けに特別に設計されたキットをお求めください。

1. マザーボードに 478 ピン ZIF ソケットが見つかったら、リテンションモジュールをマザーボードに固定します。

注意： Pentium® 4 マザーボードの用に特別に設計されたシャーシをご使用の場合、金属製スタッドやスペーサーがすでにシャーシに取り付けられていれば、その場所に注意してください。金属製スタッドやスペーサーが PCB の印刷回路線や部品に接触しないように用心してください。

2. ソケットから CPU のソケットレバーを横に、それから 90 度上に引っ張ります。CPU を正しい方向に差し込みます。CPU は一方向にしかフィットしないため、CPU を差し込む際に余分な力をかけないでください。CPU を押さえながらソケットレバーを閉めます。
3. ヒートシンクを CPU にすっぽりかぶせます。
4. ファンとリテンションメカニズムアセンブリをヒートシンクの上に置きます。ファンとリテンションメカニズムアセンブリの各サイドのリテンションロックが、4 つともリテンションホールにはめ込まれていることを確認してください。
5. ファンとリテンションメカニズムアセンブリの両側にあるリテンションロックを押し下げて、リテンションモジュール台にしっかり固定します。
6. これでファンとリテンションメカニズムアセンブリとリテンションモジュール台の各サイドが、内部のヒートシンクにしっかり固定されました。

注意： 正しいバス周波数と倍数をプロセッサ用に設定するのを忘れないでください。



2-3. システムメモリの取付け

本マザーボードは、4GB までのメモリ拡張サイズを持つ、シングル/デュアルチャネル DDR 400/333/266 メモリモジュール用に、4つの 184 ピン DDR DIMM スロットを提供します。

デュアルチャネル DDR の性能を得るには、次の規則に従う必要があります。

- 2つの DIMM モジュールを取り付けるとき：スロット[DIMM1]+[DIMM3]またはスロット [DIMM2]+[DIMM4]に対して同じタイプとサイズの DIMM モジュールを取り付けます。
- 4つの DIMM モジュールを取り付けるとき：スロット[DIMM1]+[DIMM3]、およびスロット [DIMM2]+[DIMM4]に対して同じタイプとサイズの DIMM モジュールを取り付けます。

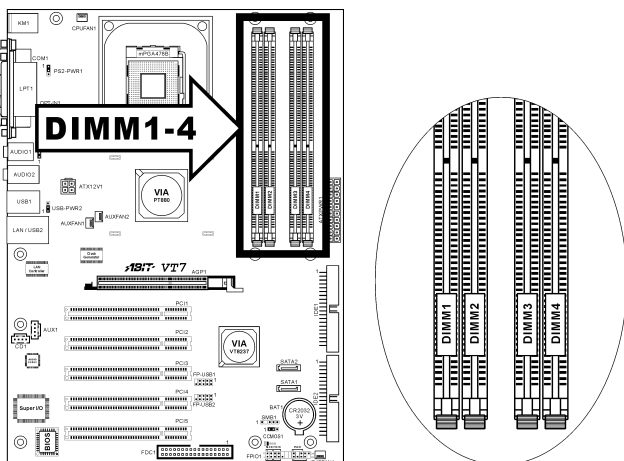


表 2-1. メモリ設定の例

| バンク | メモリモジュール | 合計 |
|-------------------|----------------------|-------------|
| Bank 0, 1 (DIMM1) | 128, 256, 512MB, 1GB | 128MB ~ 1GB |
| Bank 2, 3 (DIMM2) | 128, 256, 512MB, 1GB | 128MB ~ 1GB |
| Bank 4, 5 (DIMM3) | 128, 256, 512MB, 1GB | 128MB ~ 1GB |
| Bank 6, 7 (DIMM4) | 128, 256, 512MB, 1GB | 128MB ~ 1GB |
| システムメモリの合計 | | 128MB ~ 4GB |

注：メモリモジュールを追加または取り外した後、ハードウェアや BIOS は必要ありません。

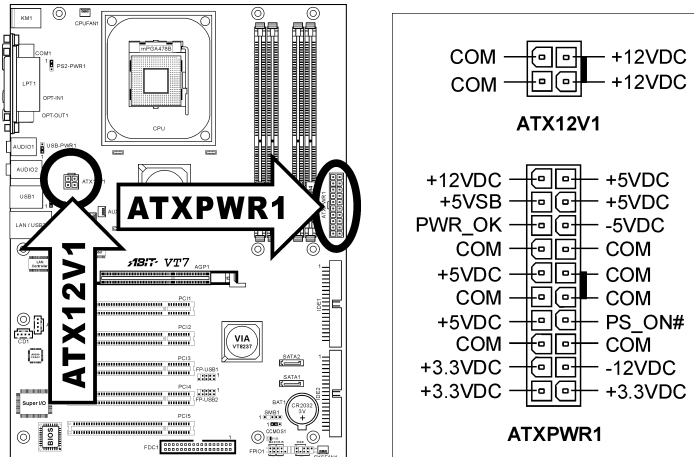
2-4. コネクタ、ヘッダ、スイッチ

ここでは、コネクタ、ヘッダ、スイッチと、その接続方法が全て表示されています。コンピュータのシャーシ内に全てのハードウェアを取り付ける前に、全ての項を読んで必要な情報を頭に入れてください。参照のために、ボード上のコネクタとヘッダの全ての位置に対応する完全な拡大配置図を第1章に示します。

警告: 周辺機器やコンポーネントを追加したり取り外す前に、必ずコンピュータの電源をオフにしてから、ACアダプタのプラグを抜いてください。さもなければ、マザーボードや周辺機器が重大な損害をこうむることもあります。全てを十分にチェックした後で、AC電源コードのプラグを差し込んでください。

(1). ATX 電源入力コネクタ

このマザーボードには2つの電源コネクタが搭載されており、少なくとも 300W、20A +5VDC または 720mA +5VSB の容量を持つ ATX12V 電源装置に接続します。



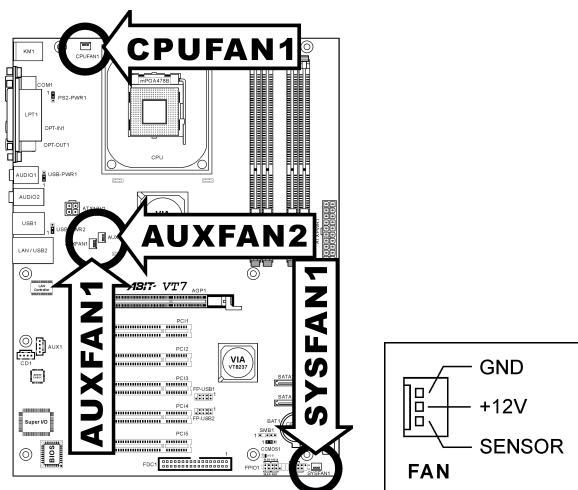
(2). FAN コネクタ

これらの3ピンコネクタはそれぞれ、システムに取り付けられたクーリングファンに電源を供給します。

CPUは、ヒートシンクを装備した強力なファンにより冷却される必要があります。システムは、CPUファンの速度を監視することができます。

- CPUFAN1 : CPU ファン
- SYSFAN1 : システムファン
- AUXFAN1/AUXFAN2 : 補助ファン

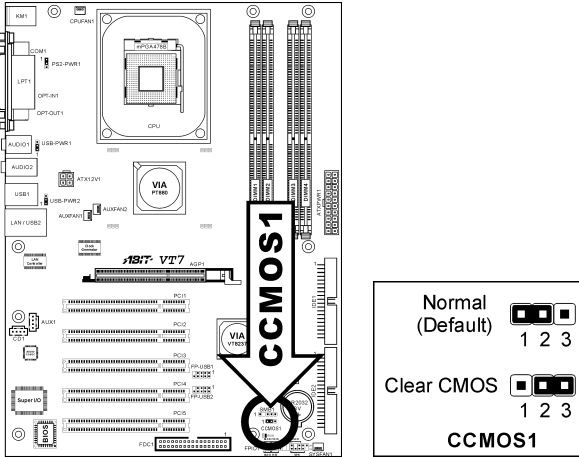
警告: これらのファンコネクタはジャンパではありません。これらのコネクタにジャンパキャップをかぶせないでください。



(3). CMOSメモリクリアリングヘッド

このCCMOS1ヘッドはジャンパキャップを使用して、CMOSメモリを消去します。

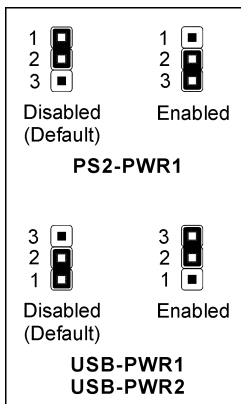
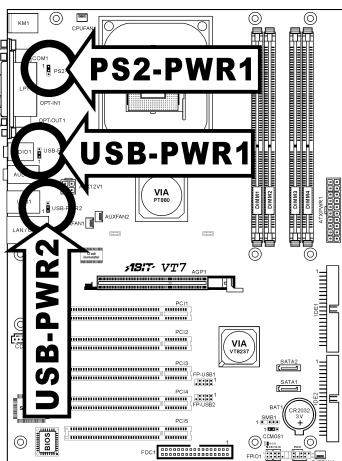
- **ピン1-2ショート（デフォルト）**：標準操作。
- **ピン2-3ショート**：CMOSメモリの消去。



警告：CMOSメモリをクリーニングする前に、まず(+5Vスタンバイ電源を含め)電源をオフにしてください。さもなければ、システムが異常な動作を引き起こしたり故障する可能性があります。

(4). ウェークアップヘッド

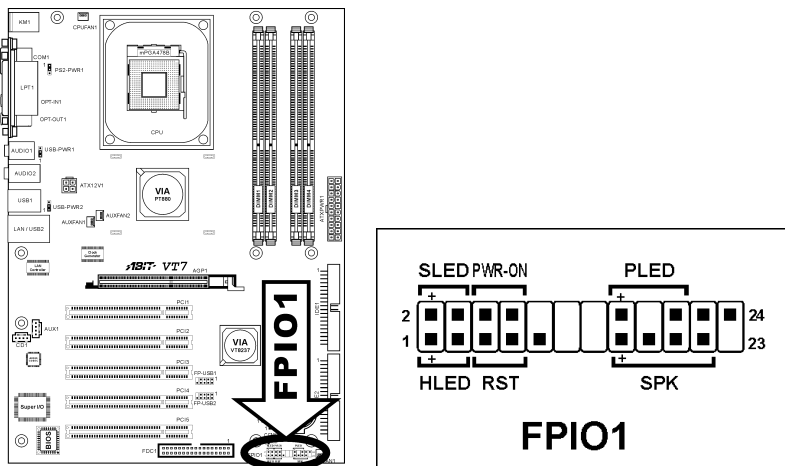
- PS2-PWR1:**
 ピン 1-2 ショート (デフォルト) : キーボード/マウスポートでのウェークアップ機能のサポートを無効にします。
 ピン 2-3 ショート : キーボード/マウスポートでのウェークアップ機能のサポートを有効にします。
- USB-PWR1 :**
 ピン 1-2 ショート (デフォルト) : USB1 ポートでのウェークアップ機能は無効にします。
 ピン 2-3 ショート : USB1 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。
- USB-PWR2:**
 ピン 1-2 ショート (デフォルト) : USB2 ポートでのウェークアップ機能は無効にします。
 ピン 2-3 ショート : USB2 ポートでのウェークアップ機能を有効にします。



(5). 前面パネルのスイッチとインジケータ接続

このヘッダは、スイッチと LED インジケータをシャーシ前面パネルに接続するために使用されます。

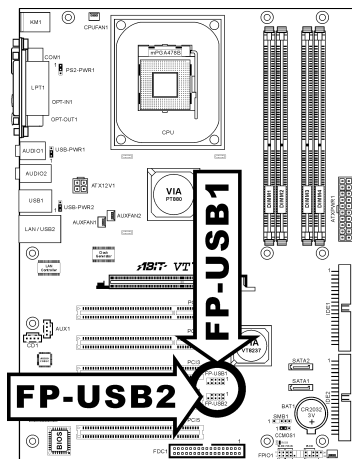
電源 LED のピン位置と方向に注してください。下図のピンに一直線に並んでいる“+”のマークは、LED 接続のプラス極を表します。これらのヘッダに間違いなく接続してください。方向を逆に接続しても LED が点灯しないだけのことで、スイッチの間違った接続はシステムの故障の原因となることがあります。



- **HLED (ピン 1, 3) :**
シャーシ前面パネルの HDD LED ケーブルに接続します。
- **RST (ピン 5, 7) :**
シャーシ前面パネルのリセットスイッチケーブルに接続します。
- **SPK (ピン 15, 17, 19, 21) :**
シャーシのシステムスピーカーケーブルに接続します。
- **SLED (ピン 2, 4) :**
シャーシ前面パネルのサスペンド LED ケーブル (もしあれば) に接続します。
- **PWR-ON (ピン 6, 8) :**
シャーシフロントパネルの電源スイッチケーブルに接続します。
- **PLED (ピン 16, 18, 20) :**
シャーシフロントパネルの電源 LED ケーブルに接続します。

(6). 追加 USB ポートヘッダ

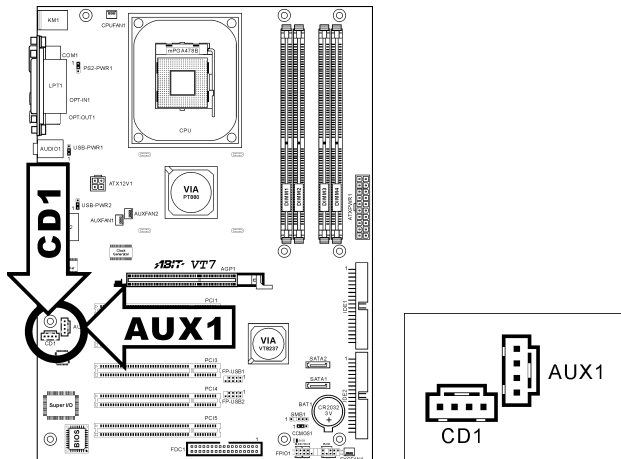
これらのヘッダはそれぞれ、USB 2.0 仕様に対して設計された USB ケーブルを通して、2つの追加 USB 2.0 ポート接続を提供します。



| | ピン | 割り当て | ピン | 割り当て |
|--|----|---------|----|---------|
| <p>7 5 3 1 10 8 6 4 2</p> <p>FP-USB1 FP-USB2</p> | 1 | VCC | 2 | VCC |
| | 3 | Data0 - | 4 | Data1 - |
| | 5 | Data0 + | 6 | Data1 + |
| | 7 | アース | 8 | アース |
| | 9 | NC | 10 | NC |

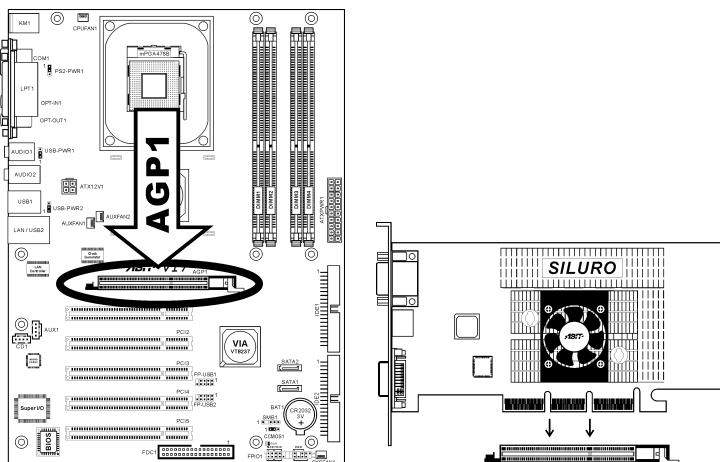
(7). 内部オーディオコネクタ

これらのコネクタは、内部 CD-ROM ドライブまたはアドオンカードのオーディオ出力に接続します。



(8). 加速式グラフィックスポートスロット

このスロットは、AGP 8X までオプションの AGP グラフィックスカードをサポートします。グラフィックスカードの詳細については、当社の Web サイトを参照してください。



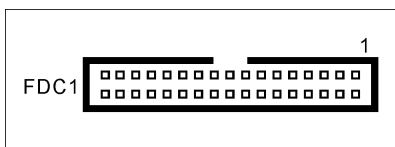
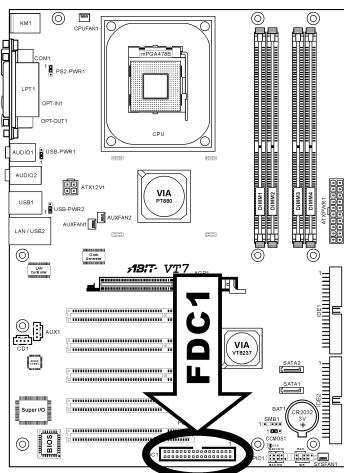
注意：このマザーボードは 3.3V AGP カードをサポートしません。1.5V または 0.8V AGP カードのみをご使用下さい。

(9). フロッピーディスクドライブコネクタ

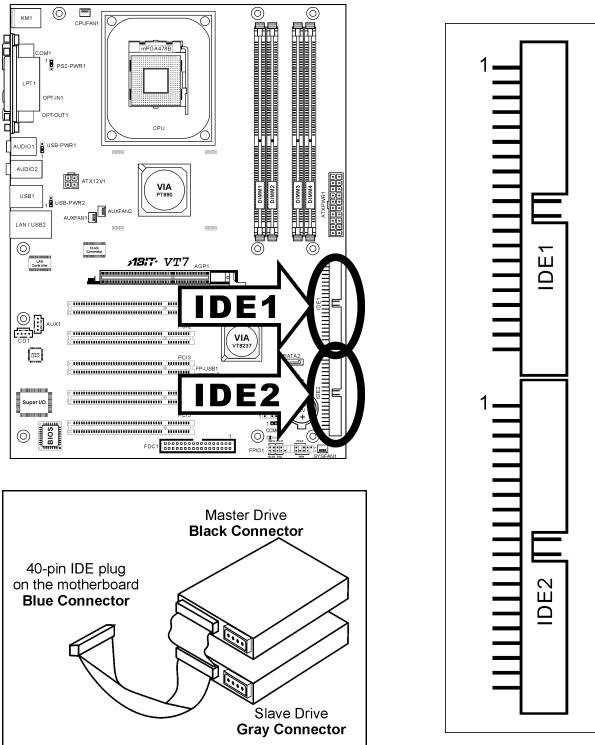
このコネクタは 34 ピン、34 コンダクターリボンケーブルを介して、2 つの標準フロッピーディスクドライブをサポートします。

フロッピーディスクドライブのケーブルに接続するには、次の手順を実行します。

1. リボンケーブルの一方の端を FDC1 コネクタに取り付けます。リボンケーブルの着色された端を FDC1 コネクタのピン 1 に合わせます。
2. リボンケーブルのもう一方の端をディスクドライブのコネクタに接続します。リボンケーブルの着色された端もディスクドライブコネクタのピン 1 に合わせます。末端のコネクタを、ドライブ A として指定されたドライブに接続します。



(10). IDE コネクタ



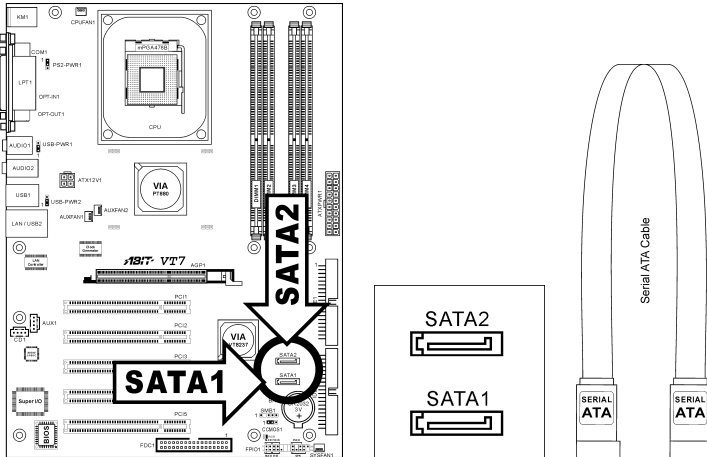
このマザーボードは2つの IDE ポートを提供して、Ultra ATA 66 リボンケーブルにより、Ultra ATA 100 モードで最大4基の IDE ドライブに接続します。各ケーブルは40ピン80コンダクタと3つのコネクタを備え、マザーボードに2基のハードドライブを接続できるようになっています。長い方のリボンケーブルの1本の端を(青いコネクタ)をマザーボードの IDE ポートに接続し、短い方のリボンケーブルのほかの2本の端(グレーおよび黒のコネクタ)をハードドライブのコネクタに接続します。

2台のハードドライブを1つの IDE チャンネルを通して一緒に接続するには、最初のドライブをマスタに構成してから2番目のドライブをスレーブモードに構成する必要があります。ジャンプ設定については、ドライブのマニュアルを参照してください。IDE1 に接続された最初のドライブは通常「プライマリマスタ」と呼ばれ、2番目のドライブは「プライマリスレーブ」と呼ばれます。IDE2 に接続された最初のドライブは「セカンダリマスタ」と呼ばれ、2番目のドライブは「セカンダリスレーブ」と呼ばれます。

CD-ROM のような従来の速度の遅いドライブを同じ IDE チャンネルに接続すると、システム全体の性能が落ちることになるので、避けてください。

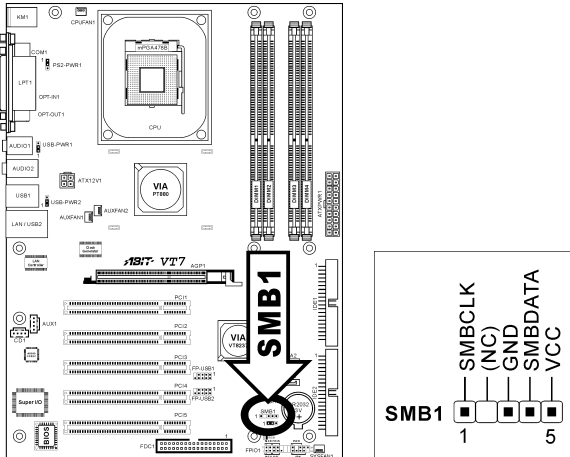
(11). シリアル ATA コネクタ

これらのコネクタは、Serial ATA ケーブル経由で各チャンネル毎に 1 つの Serial ATA デバイスを接続するために用意されています。ソフトウェア構成によって RAID 0 または RAID 1 のアレイも利用できます。



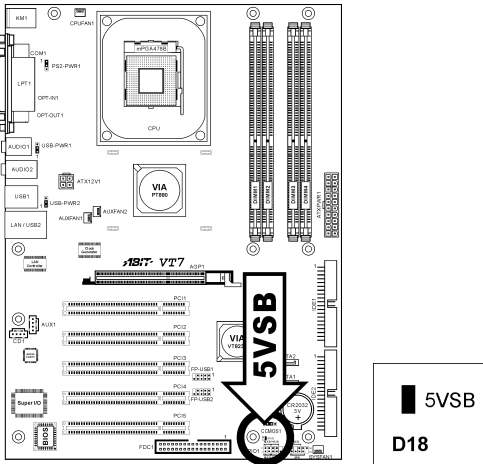
(12). システム管理バスヘッダ

このヘッダは、システム管理バス(SM バス)用に用意されています。SM バスは I²C バスを特殊に変更したものです。I²C はマルチマスタバスですが、これは複数のチップを同じバスに接続し、それぞれのチップをデータ転送を初期化することによってマスタとして機能できるようにすることを意味します。複数のマスタが同時にバスをコントロールしようとする、仲裁手順がどのマスタに優先権を与えるかを決定します。

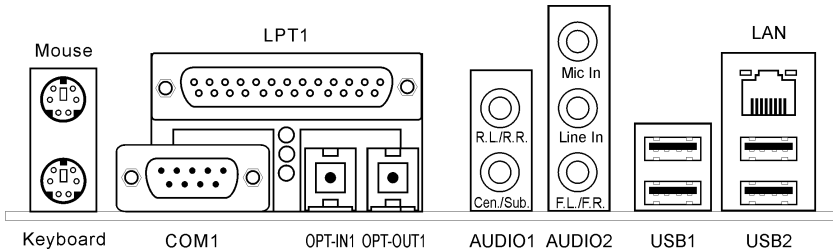


(13). 状態インジケータ

- **D18 (5VSB):** この LED は、電源装置が電源に接続されているときに点灯します。



(14) 背面パネルの接続



- **マウス**：PS/2 マウスに接続します。
- **キーボード**：PS/2 キーボードに接続します。
- **LPT1**：この通信プロトコルをサポートするプリンタやその他のデバイスに接続します。
- **COM1**：この通信プロトコルをサポートする外部モデム、マウスまたはその他のデバイスに接続します。
- **OPT-IN1**：このコネクタは、光ファイバを通してデジタルマルチメディアデバイスへのS/PDIF イン接続を提供します。
- **OPT-OUT1**：このコネクタは、光ファイバを通してデジタルマルチメディアデバイスへのS/PDIF アウト接続を提供します。
- **AUDIO1**：
R.L./R.R. (背面左 / 背面右)：5.1 チャンネルのオーディオシステムの背面左および背面右チャンネルに接続します。
Cen./Sub. (センター / サブウーファ)：5.1 チャンネルのオーディオシステムのセンターおよびサブウーファチャンネルに接続します。
- **AUDIO2**：
Mic In：外部マイクからプラグに接続します。
Line In：外部オーディオソースからラインアウトに接続します。
F.L./F.R. (前面左 / 前面右)：5.1 チャンネルまたは通常の2チャンネルオーディオシステムの前面左と前面右チャンネルに接続します。
- **LAN**：構内通信網 (LAN) に接続します。
- **USB1/USB2**：スキャナ、デジタルスピーカー、モニター、マウス、キーボード、ハブ、デジタルカメラ、ジョイスティックなどの USB デバイスに接続します。

第3章 BIOS について

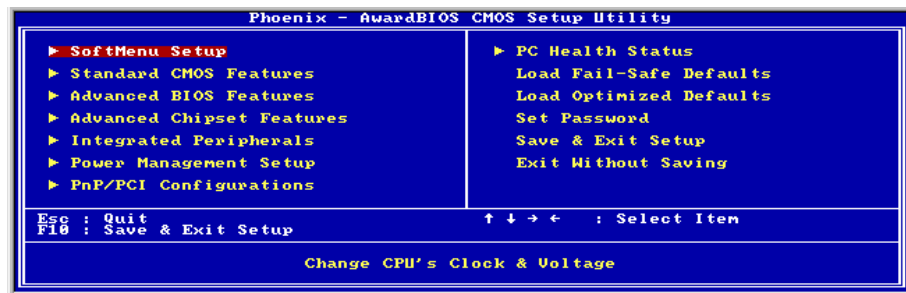
このマザーボードはプログラム可能な EEPROM を提供し、BIOS ユーティリティを更新することができます。BIOS (基本入出力システム)はプロセッサと周辺装置の間で通信の基本レベルを処理するプログラムです。マザーボードを取り付けたり、システムを再構成したり、“セットアップの実行”を指示するときだけに、BIOS セットアッププログラムを使用します。本章では、BIOS ユーティリティのセットアップユーティリティを説明します。

システムの電源をオンにすると、BIOS メッセージが画面に表示され、メモリがカウントを開始し、次のメッセージが画面に表示されます。

PRESS DEL TO ENTER SETUP

応答する前にメッセージが消えたら、<Ctrl>+<Alt>+キーを押すか、コンピュータシャシのリセットボタンを押してシステムを再起動します。これらの2つの方法が失敗した場合のみ、電源をオフにした後またオンにしてシステムを再起動することができます。

キーを押した後、メインメニュー画面が表示されます。



注：システムの安定性と性能を高めるために、当社の技術陣が BIOS メニューを絶えず改良しています。BIOS セットアップ画面と本書で示した説明は参照のためのもので、画面に表示されるものと完全に一致しないこともあります。

3-1. SoftMenu Setup

SoftMenu ユーティリティは、CPU の動作速度プログラムするための ABIT の独占的で究極のソリューションです。CPU FSB 速度、マルチプライヤファクタ、AGP & PCI クロック、CPU コア電圧に関する全てのパラメータはワンタッチで操作することができます。



Brand Name:

このアイテムは CPU のモデル名、例えば Pentium (R) 4 を表示します。

Frequency:

本アイテムはプロセッサ速度を表示します。

Cache Size:

本アイテムは CPU の L2 キャッシュサイズを表示します。

CPU Operating Speed:

このアイテムは、お使いの CPU のタイプと速度に従って CPU のオペレーティング速度を表示します。[User Define] (ユーザー定義) オプションを選択すると、マニュアルオプションに入ることができます。

User Define:

警告: クロック倍数と外部クロックの設定を誤ると、CPU をダメージを与えることがあります。PCI のチップセットまたはプロセッサの仕様よりも高い周波数に設定すると、メモリモジュールエラー、システムクラッシュ、ハードディスクドライブのデータロス、VGA カードや他のアドオンカードの誤動作を招く場合があります。CPU の仕様外の設定は本書の目的ではありません。そうした設定はエンジニアリングテストのためで、通常のアプリケーションでは使用しないでください。

仕様を超える設定に対して保証はできません。これに起因するマザーボードまたは周辺装置の損傷に対して当社は責任を負わないものとします。

*** CPU FSB Clock (MHz):**

このアイテムは、CPU フロントサイドバスの速度を 100 から 255 まで設定します。取り付けた CPU の仕様制限によって、その標準のバス速度を超えて設定した速度はサポートされますが、保証はされません。

*** Multiplier Factor:**

このアイテムは、取り付けた CPU の乗数を設定します。

注意: プロセッサによっては、この乗数をロックしているものもあり、その場合大きい乗数を選択することはできません。

*** Estimated new CPU clock:**

このアイテムは、前のアイテムの [Ext.Clock] と [Multiplier Factor] からのクロック周波数の通算を表示します。

*** DRAM/PCI Ratio:**

このアイテムは [DRAM] と [PCI] の間の周波数を決定します。

[By PSD] に設定すると、BIOS は DRAM モジュールの SPD データを読み取り、DRAM クロックを自動的に保存された値に設定します。

*** AGP Ratio (CPU:AGP:PCI):**

このアイテムは [CPU]、[AGP]、[PCI] の間の周波数を決定します。

*** New CPU/DDR/AGP/PCI Clk:**

このアイテムは [CPU]、[DDR]、[AGP]、[PCI] における前の設定のクロック周波数を表示します。

Voltages Control:

このオプションによって、CPU デフォルトとユーザー定義の電圧を切り替えることができます。この設定は、現在の CPU タイプと電圧設定を検出できない場合、または正しくない場合を除き、デフォルトのままにしておいてください。オプション「**ユーザー定義**」では、コア電圧を手動で選択できます。

*** CPU Core Voltage:**

このアイテムは、CPU のコア電圧を選択します。

注意: 間違った電圧設定を行うと、システムが不安定になったり、CPU が損傷することさえあります。その結果を十分掌握していない限り、デフォルトの設定のままにしておいてください。

*** DRAM Voltage:**

このアイテムは、DRAM の電圧を選択します。

*** AGP Voltage:**

このアイテムは、AGP の電圧を選択します。

3-2. Standard CMOS Features



Date (mm:dd:yy):

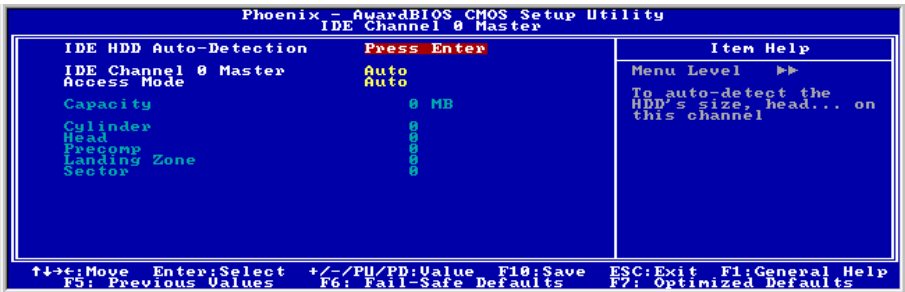
このアイテムは[月]、[日]、[年]の形式で指定する日付（通常、現在の日）を設定します。

Time (hh:mm:ss):

このアイテムは[時]、[分]、[秒]の形式で指定する日付（通常、現在の時間）を設定します。

↳ IDE Channel 0 Master/Slave、IDE Channel 1 Master/Slave:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



IDE HDD Auto-Detection:

このアイテムでは、<Enter> キーを押すことによって IDE ドライバのパラメータを検出できるようになっています。パラメータが画面の上に自動的に表示されます。

IDE Channel 0 Master/Slave、IDE Channel 1 Master/Slave:

[Auto] (自動) に設定すると、BIOS はどの種類の IDE ドライブを使用しているかを自動的にチェックします。自分でドライブを定義したい場合、これを[Manual] (マニュアル) に設定し、パラ

メータの意味を完全に理解していることを確認してください。正しい設定を得るには、デバイスメーカーが提供する使用説明書を参照してください。

Access Mode:

このアイテムはお使いの IDE デバイスにアクセスするモードを選択します。このアイテムをデフォルトの [Auto] (自動) 設定のままにしておくと、HDD のアクセスモードを自動的に検出します。

Capacity:

このアイテムはディスクドライブのおおよその容量を表示します。一般に、サイズはディスクチェックプログラムに示されるフォーマット済みディスクのサイズよりいくらか大きくなります。

Cylinder:

このアイテムはシリンダの数を構成します。

Head:

このアイテムは読込/書込ヘッドの数を構成します。

Precomp:

このアイテムは、書込タイミングを変更するシリンダの数を表示します。

Landing Zone:

このアイテムは、読取り/書込みヘッド用のランディングゾーンとして指定されるシリンダの番号を表示します。

Sector:

このアイテムは、トラック当りのセクタの数を構成します。

☞ **Standard CMOS Features Setup Menu に戻ります :**

Drive A & Drive B:

このアイテムは取り付けられたフロッピードライブ (通常、ドライブ A のみ) のタイプを設定します。

Floppy 3 Mode Support:

このアイテムによって、日本のコンピュータシステムの「3モードフロッピードライブ」を使用し、ドライブ A、B、または AB 両方のドライブを選択することができます。日本標準のフロッピードライブを使用しない場合、デフォルトの [Disabled] (使用不可能) 設定のままにしてください。

Video:

このアイテムは、一次システム監視で使用されるビデオアダプタのタイプを選択します。

[EGA/VGA]: (Enhanced Graphics Adapter/Video Graphics Array) EGA、VGA、SVGA、PGA モニターアダプタの場合。

[CGA 40]: (Color Graphics Adapter) 40 カラムモードで駆動。

[CGA 80]: (Color Graphics Adapter) 80 カラムモードで駆動。

[Mono]: (Monochrome adapter) 高解像度のモノクロームアダプタを組み込み。

Halt On:

このアイテムは、システムの起動中にエラーが検出された場合、システムを停止するかどうかを決定します。

[All Errors]: システムブートは、BIOS が致命的でないエラーを検出すると必ず停止します。

[No Errors]: システムブートは、エラーを検出すると停止します。

[All, But Keyboard]: システムブートは、キーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

[All, But Diskette]: システムブートは、ディスクエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

[All, But Disk/Key]: システムブートは、ディスクまたはキーボードエラー以外のすべてのエラーに対して停止します。

Base Memory:

このアイテムは、システムにインストールされた基本メモリの量を表示します。基本メモリの値は 640K を搭載したシステムの場合一般的には 640K ですが、マザーボードにさらに多くのメモリサイズをインストールすることもできます。

Extended Memory:

このアイテムは、システムの起動中に検出された拡張メモリの量を表示します。

Total Memory:

このアイテムは、システムで利用できる総メモリを表示します。

3-3. Advanced BIOS Features



Hyper-Threading Technology

このアイテムは、ハイパースレッド・テクノロジーを搭載したプロセッサの機能を可能にし、このタイプのプロセッサを使用している場合のみ表示されます。

ハイパースレッド・テクノロジーは、プロセッサのリソースを最大化することでパソコンの性能を向上し、1つのプロセッサで2つの独立したソフトウェアスレッドを同時に稼働させることを可能にします。このため、複数アプリケーションを実行中に従来の4倍のシステム性能と反応を実現させることができます。

Quick Power On Self Test:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、このアイテムはシステムの電源をオンにした後電源オンセルフテスト(POST)の速度を上げます。BIOSはPOSTの間いくつかのチェックを短縮したりスキップします。

Hard Disk Boot Priority:

このアイテムは、ハードディスクのブート優先順位を選択します。<Enter>キーを押すことによって、そのサブメニューに入り、ここで検出されたハードディスクをシステム起動のためのブートシーケンス用を選択することができます。

このアイテムは、1次/2次/3次ブートデバイスアイテムのどれかに[ハードディスク]のオプションがあるときのみ機能します。

* **Bootable Add-in Device:**

このアイテムでは、[OnChip SATA RAID] または [PCI Slot Device] チャンネルから起動可能アドインデバイスを選択し、“Hard Disk Boot Priority”のアイテムで起動可能デバイスとして表示させることができます。

* **HDD Change Message:**

[Enabled] に設定した場合、システムにインストールされているハードドライブに変更が加えられると、POST中の画面にポップアップメッセージが表示されます。

First Boot Device / Second Boot Device / Third Boot Device / Boot Other Device:

[First Boot Device] (第1 ブートデバイス)、[Second Boot Device] (第2 ブートデバイス)、[Third Boot Device] (第3 ブートデバイス) アイテムでそれぞれ起動する第1、第2、第3 ドライブを選択します。BIOS は選択したドライブのシーケンスに従ってオペレーティングシステムを起動します。以上の3つのアイテム以外のデバイスから起動したい場合は、[他のデバイスを起動]を[Enabled] (使用可能) に設定してください。

Swap Floppy Drive:

[Enabled] (使用可能) に設定しているときに、システムをフロッピードライブから起動すると、システムは通常のドライブ A の代わりにドライブ B から起動します。この機能を使用するには、システムに2基のフロッピードライブを接続している必要があります。

Boot Up Floppy Seek:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、BIOS はフロッピーディスクドライブがインストールされているかどうかをチェックします。

Boot Up NumLock Status:

このアイテムは、システムが起動するときに数値キーボードのデフォルトの状態を決定します。

[On] : 数字キーとしての数値キーパッド機能。

[Off] : 矢印キーとしての数値キーパッド機能。

Security Option:

このアイテムは、システムがパスワードを要求するとき – システムが起動するたびか、または BIOS セットアップに入るときのみかを決定します。

[Setup]: パスワードは BIOS セットアップにアクセスするときのみ要求されます。

[System]: パスワードはコンピュータが起動するたびに要求されます。

注 : パスワードは忘れないでください。パスワードを忘れた場合、コンピュータのケースを開けて、CMOS のすべての情報をクリアにしてからシステムを起動してください。この場合、以前に設定したすべてのオプションはリセットされます。

APIC Mode:

このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

MPS Version Control For OS:

この項目は、このマザーボードが使用する MPS (多重プロセッサ仕様) のバージョンを指定します。このアイテムは、そのデフォルトの設定のままにしておいて下さい。

OS Select For DRAM > 64MB:

このアイテムにより、OS/2 で 64MB 以上のメモリにアクセスできます。OS/2 以外のオペレーティングシステムの場合、このアイテムをデフォルトの[非 OS2]設定のままにしておいてください。

Report No FDD For WIN 95:

[Enabled] (使用可能) に設定すると、このアイテムによりフロッピーディスクドライブがなくても一部の古いオペレーティングシステムを実行できます。

Disable Unused PCI Clock:

このオプションは、使用されていない PCI スロットのクロックを使用不可能にします。

[Yes]: システムは未使用の DIMM と PCI スロットを自動的に検出し、これらの未使用 PCI スロットへのクロック信号の送信を停止します。

[No]: システムはすべての PCI スロットにクロック信号をたえず送信します。

注: システムが自動的に検出できないアダプタがある場合、このオプションを[いいえ]に設定すると、誤動作の原因となります。

Intel OnScreen Branding:

この項目は、システム起動時に「Intel Inside」ロゴの表示または非表示を決定します。

3-4. Advanced Chipset Features



DRAM Clock/Drive Control:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



DRAM Timing:

このアイテムは、DRAM モジュールのタイミング方法を決定します。

[Manual]: このオプションでは、以下のサブアイテムから手動で最適オプションを選択することができます。

[Auto By SPD]: このオプションは、DRAM モジュールに保存された SPD (Serial Presence Detect) データ構造を自動的に実行させることができます。

[Turbo]: このオプションは、[Auto By SPD] オプションの速度よりも速い速度でのシステム稼働を実現させます。

[Ultra]: このオプションは、[Turbo] オプションの速度よりも速い速度でのシステム稼働を実現させます。

注： 互換性や安定性の問題が懸念される場合は、このアイテムを既定の [Auto By SPD] オプションのままにしておいてください。

- * [SDRAM CAS Latency], [Bank Interleave], [Precharge to Active(Trp)], [Active to Precharge (Tras)], [Active to CMD(Trcd)], [REF to ACT/REF to REF(Trfc)]:

これらサブアイテムは [Auto By SPD] オプションで設定された既定値を表示します。これらの設定は [Manual] オプションでのみ、手動で調整することができます。

DRAM BUS Selection:

このアイテムは [Single Channel] または [Dual Channel] から DRAM モジュールのチャンネルを決定します。[Single Channel] オプションは標準の 64 ビットアクセスレートが可能です。[Dual Channel] オプションは 2 倍の 128 ビットアクセスレートが可能です。このアイテムを既定の [Auto] に設定しておくと、自動選択されます。

注: より高い性能を確保するためには、スロット [DIMM1]+[DIMM3] または DIMM2]+[DIMM4] には同一メーカー、同一仕様の DRAM をお使いになることをお勧めします。

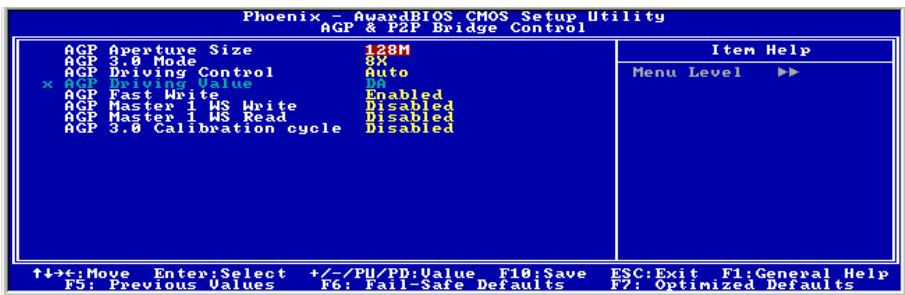
DRAM Command Rate:

このアイテムはコマンドの待ち状態を決定します。システム互換性を確保するには [2T Command]、システム性能を確保するには [1T Command] を選択してください。

🔍 Advanced Chipset Features Setup Menu に戻ります:

AGP & P2P Bridge Control:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



AGP Aperture Size:

このアイテムは AGP デバイスに割り当てるシステムメモリ量を決定します。範囲はグラフィックメモリアドレス容量のために確保された PCI メモリアドレス領域です。

AGP 3.0 Mode:

このアイテムにより、AGP デバイスのデータ転送速度を選択できます。速度が高ければ高いほど、システムのグラフィックス速度は高速になり性能も向上します。お使いのグラフィックスカードが選択したモードをサポートすることを確認してください。

注: AGP 3.0 仕様のグラフィックカードがインストールされていない場合、このアイテムは“AGP 2.0 Mode”に変更します。

AGP Driving Control:

一部のグラフィックカードと互換性問題が生じた場合にのみ、このアイテムを [Manual] オプションに設定してください。[Manual] に設定する場合、以下の [AGP Driving Value] アイテムで値を選択する必要があります。

*** AGP Driving Value:**

このアイテムは AGP ドライビングコントロール値を決定します。

AGP Fast Write:

このアイテムは、CPU がその他のシステムメモリを通過せず、直接グラフィックカードに書き込みを行うことで AGP 速度を向上させる AGP 高速書込機能を決定します。インストールされた AGP カードがこの機能に対応している場合のみ [Enabled] に設定してください。

AGP Master 1 WS Write:

[Enabled] と設定すると、AGP 書込サイクルに 1 ステートの待機が加わり、安定性が増します。

AGP Master 1 WS Read:

[Enabled] と設定すると、AGP 準備サイクルに 1 ステートの待機が加わり、安定性が増します。

AGP 3.0 Calibration cycle:

このアイテムは AGP と North Bridge 間の時間周期をコントロールします。AGP 3.0 機能を持つ一部のグラフィックカードを使用中に問題が生じた場合は、[Enabled] オプションを試してください。

注: このアイテムは AGP 3.0 仕様のグラフィックカードがインストールされている場合にのみ有効です。

🔍 Advanced Chipset Features Setup Menu に戻ります:

CPU & PCI Bus Control:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



PCI Master 0 WS Write:

[Enabled]:PCI バスのデータ受信準備が整っている場合、待機ステートゼロ (即時) で PCI バスへの書き込みが実行されます。

[Disabled]:データが PCI バスへ書き込まれる前に 1 ステート待ちます。

VLink 8X Support:

[Enabled]:North Bridge と South Bridge をつなぐ VLink の速度は 8 倍です。

[Disabled]:North Bridge と South Bridge をつなぐ VLink の速度は 4 倍です。

🔍 Advanced Chipset Features Setup Menu に戻ります:

System BIOS Cacheable:

[Enabled] (使用可能) に設定しているとき、キャッシュコントローラが使用可能になっていれば、F0000H-FFFFFH にアドレス指定されたシステム BIOS ROM へのアクセスがキャッシュされます。キャッシュ RAM の範囲が大きければ大きいほど、システムの効率は高くなります。

Top Performance:

互換性の問題がなければ、この項目は DRAM パフォーマンスを有効にします。

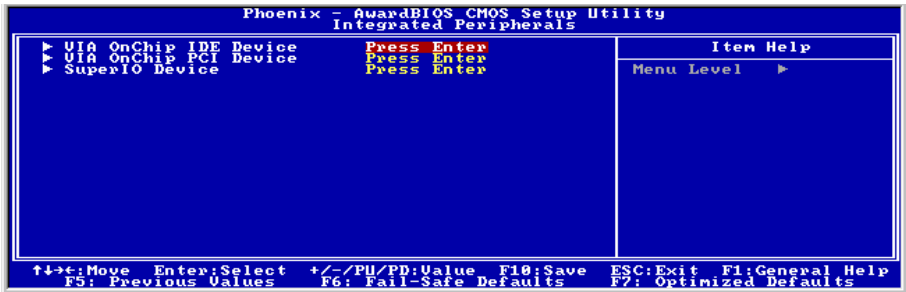
Init Display First:

このアイテムは、システムが起動するとき AGP または PCI スロットをまず初期化するために選択します。

[AGP]: システムが起動するとき、まず AGP を初期化します。

[PCI Slot]: システムが起動するとき、まず PCI を初期化します。

3-5. Integrated Peripherals



VIA OnChip IDE Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



SATA RAID ROM:

この項目では、オンチップシリアル ATA RAID のブート ROM を使用してシステムを起動することができます。

IDE Bus Master:

このオプションは、DOS 環境の下で IDE バスマスタリング機能の有効/無効を切り替えます。

IDE Prefetch Mode:

このアイテムを既定の [Enabled] 設定にすると、データとアドレスが内部チップバッファに保存されます。アクセス時間を短縮し、より優れた性能を得ることができます。

Onboard IDE-1 Controller:

このアイテムにより、一次および二次 IDE コントローラの使用可能/不可能を切り替えることができます。異なるハードドライブコントローラを追加するには、[Disabled] (使用不可能) を選択してください。

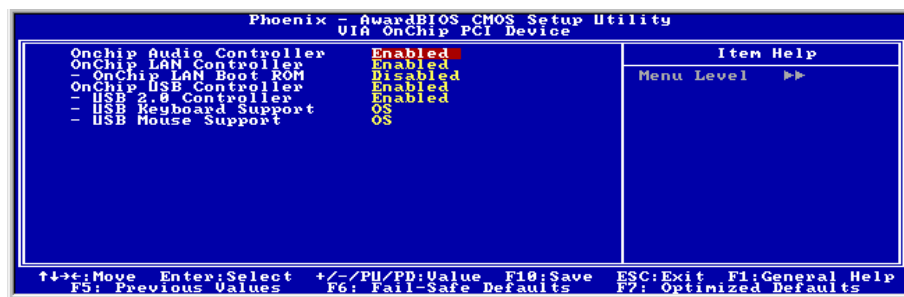
Onboard IDE-2 Controller:

Onboard IDE-1 Controller の説明を参照してください。

☞ **Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:**

VIA OnChip PCI Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

**OnChip Audio Controller:**

このアイテムはオンボードオーディオコントローラを使用できるようにします。

OnChip LAN Controller:

このアイテムはオンボード LAN コントローラを使用できるようにします。

* **OnChip LAN Boot ROM:**

このアイテムはオンボード LAN Boot ROM を使用できるようにします。

OnChip USB Controller:

このアイテムはオンボード USB コントローラを使用できるようにします。

* **USB 2.0 Controller:**

このアイテムはオンボード USB 2.0 コントローラを使用できるようにします。

* **USB Keyboard Support:**

このアイテムにより、DOS 環境で USB キーボードを使用するための[BIOS]を、または、または OS 環境では[OS]を選択することができます。

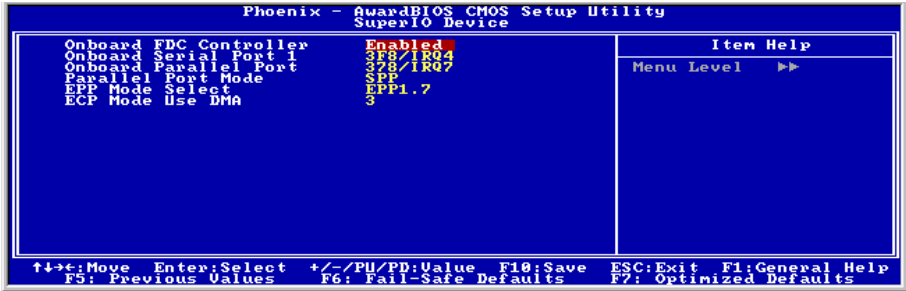
* USB Mouse Support:

このアイテムにより、DOS 環境で USB マウスを使用するための[BIOS]を、または、または OS 環境では[OS]を選択することができます。

⇒ Integrated Peripherals Setup Menu に戻ります:

SuperIO Device:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



Onboard FDC Controller:

このアイテムはオンボード FDC コントローラを使用できるようにします。

Onboard Serial Port 1:

このアイテムは、どの I/O アドレスにオンボードのシリアルポートコントローラがアクセスするかを決定します。

[Auto] : システムは、オンボードシリアルポートの I/O アドレスを自動的に選択します。

[3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3] : オンボードシリアルポートの I/O アドレスを手動で選択できるようにします。

[Disabled] : オンボードシリアルポートを個別にまたは同時に使用不可能に設定します。

Onboard Parallel Port:

このアイテムは、パラレルポートが使用する I/O アドレスを指定します。

[Disabled] : このオプションは、パラレルポートがシステムリソースに一切アクセスできないようにします。このオプションの値が使用不可能に設定されていると、プリンタポートは使用できません。

[3F8/IRQ7] : このオプションは、パラレルポートがその I/O ポートアドレスとして[378/IRQ7]を使用できるようにします。コンピュータシステムの大多数のパラレルポートは、標準設定として IRQ7 と I/O ポート 378H を使用します。

[278/IRQ5] : このオプションは、パラレルポートがその I/O ポートアドレスとして[278/IRQ5]を使用できるようにします。

[3BC/IRQ7] : このオプションは、パラレルポートがその I/O ポートアドレスとして[3BC/IRQ7]を使用できるようにします。

※ **Parallel Port Mode:**

このアイテムは、パラレルポートのモードを指定します。

[Normal] : 標準のパラレルポートモードを使用できるようにします。

[SPP] : 標準速度での双方向のパラレルポート操作を可能にします。

[EPP] : 最高速度での双方向のパラレルポート操作を可能にします。

[ECP] : 標準モードのデータ転送速度より高速で双方向のパラレルポート操作を可能にします

[ECP+EPP]: ECP と EPP モードでパラレルポート動作を可能にします。

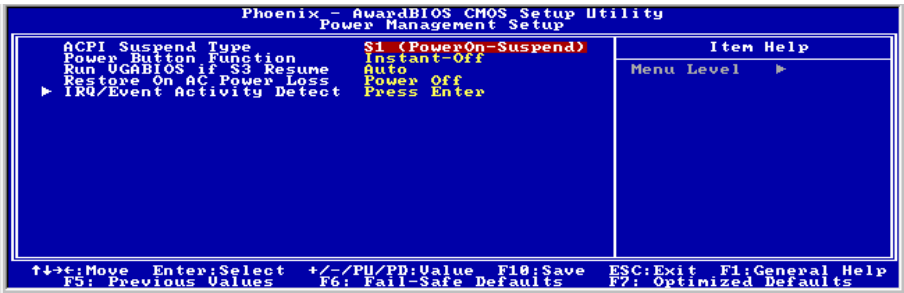
※ **EPP Mode Select:**

このアイテムは EPP モードを選択します。

※ **ECP Mode Use DMA:**

このアイテムは、パラレルポートの DMA チャンネルを選択します。

3-6. Power Management Setup



ACPI Suspend Type:

このアイテムは、サスペンドモードのタイプを選択します。

[S1(PowerOn-Suspend)] : 電源オンサスペンド機能を使用可能にします。

[S3(Suspend-To-RAM)] : サスペンド対 RAM 機能を使用可能にします。

Power Button Function:

このアイテムは、システムの電源をオフにする方法を選択します。

[Delay 4 Sec.]: 電源ボタンを4秒以上長く押し続けていると、システムの電源がオフになります。これにより、電源ボタンにうっかり触れたり押ししたりした場合にシステムの電源がオフになることを防ぐことができます。

[Instant-Off]: 電源ボタンを一度押してから離すと、直ちにシステムの電源がオフになります。

Run VGABIOS if S3 Resume:

次の3つのオプションが指定できます: Auto (自動) → Yes (はい) → No (いいえ)。デフォルトは Auto (自動) です。このアイテムにより、いつ S3 レジュームをアクティブにするか、VGA BIOS を開始する必要があるかどうかを選択することができます。

Restore On AC Power Loss:

このアイテムは、AC 電源に障害が発生した後のシステム動作を選択します。

[Power Off]: AC 電源の障害後に電源が回復しても、システムの電源はオフになったままです。システムの電源をオンにするには、電源ボタンを押す必要があります。

[Power On]: AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムの電源は自動的にオンになります。

[Last State]: AC 電源の障害後に電源が回復すると、システムは電源障害が発生する前の状態に戻ります。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオフになっていたら、電源が回復したときにもシステムの電源はオフになったままです。AC 電源の障害が発生したときにシステムの電源がオンになっていたら、電源が回復したときにシステムの電源はオンになります。 .

IRQ/Event Activity Detect:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。



Power On Function:

このアイテムはシステム起動方法を選択します。

[Button Only](ボタンのみ):電源ボタンのみをクリックしてシステム電源を入れます。

[Password](パスワード):最大 8 文字のパスワードを入力してシステム電源を入れます。画面の指示に従いパスワードを確認してください。

[Hot Key](ホットキー):ユーザー設定のホットキーの組み合わせをクリックしてシステム電源を入れます。

[Mouse](マウス):PS/2 マウスのボタンをクリックしてシステム電源を入れます。

※ Hot Key Power ON:

このアイテムは、<Ctrl+F1> ~ <Ctrl+F12>、<Power>、<Wake>、<Any Key>のいずれかのホットキーの組み合わせをクリックするとシステム電源を入れることができます。

※ KB Power ON Password:

“Power On Function” (電源オン機能) の設定が [Password](パスワード) に設定されている場合のみこのアイテムが表示されます。パスワードを入力してください。

注: パスワードを忘れないでください。忘れると、この機能を再び利用するには、CMOS を消去して全てのパラメータをリセットしなければなりません。

※ Power Button Lock:

“Power On Function” (電源オン機能) の設定が [Password](パスワード) に設定されている場合のみこのアイテムが表示されます。

“Power On Function” (電源オン機能) のアイテムを [Password](パスワード) に設定した後、[KB Power On Password] (キーボード電源オンパスワード) のパスワードを入力し、このアイテムを [Enabled] (有効) に設定すると、電源ボタンの機能が無効になります。“KB Power ON Password” (キーボード電源オンパスワード) で設定されたパスワードを入力した場合のみシステムを稼働させることができます。

※ **Mouse Power ON:**

“Power On Function” (電源オン機能) の設定が [Mouse](マウス) に設定されている場合のみこのアイテムが表示されます。

“Power On Function” (電源オン機能) を [Mouse](マウス) に設定した後、このアイテムを [Enabled] (有効) に設定すると、PS/2 マウスのボタンをクリックしてシステム電源を入れることができます。

Resume by OnChip USB:

次の2つのオプションが指定できます: Disabled (使用しない) または Enabled (使用する)。デフォルトは *Disabled (使用しない)* です。Enabled (使用する) に設定すると、オンチップ USB に影響を与えるすべてのイベントは電源がダウンしたシステムを呼び起こします。

Wake-Up by PME# of PCI:

[Enabled] (使用可能) に設定しているとき、モデムや LAN カードなどのオンボード LAN や PCI カードにアクセスすると、システムを呼び起こす原因となります。PCI カードは呼び起こし機能をサポートする必要があります。

Resume By Ring:

次の2つのアイテム、Disabled (使用しない) または Enabled (使用する) が設定できます。デフォルトは *Disabled (使用しない)* です。Enabled (使用する) に設定するとき、モデムリングに影響を及ぼすイベントはパワーダウンしたシステムを呼び起こします。

WakeUp by Alarm:

[Enabled] (使用可能) に設定すると、“日 (月の) アラーム”および“時 (hh:mm:ss) アラーム”アイテムでソフトオフ PC の電源をオンにしたい日と時間を設定できます。ただし、システムがこれらのアイテムで設定された日と時間より前に入電またはネットワーク(レジュームオンリング/LAN)によりアクセスされると、システムは入電やネットワークに優先順位を与えます。

※ **Date (of Month) Alarm**

[0]: このオプションは、“時 (hh:mm:ss) アラーム”アイテムで設定された時間に従って毎日システムの電源をオンにします。

[1-31]: このオプションは、システムの電源をオンにする日を選択します。システムは設定された日、および“時 (hh:mm:ss) アラーム”アイテムで設定された時間に電源がオンになります。

※ **Time (hh:mm:ss) Alarm**

このアイテムは、システムの電源をオンにする時間を設定します。

3-7. PnP/PCI Configurations



Resources Controlled By:

このアイテムは、全ての起動およびプラグアンドプレイ互換デバイスを構成します。

[Auto]: システムは設定を自動的に検出します。

[Manual]: “IRQ リソース”メニューで、特定の IRQ リソースを選択してください。

* IRQ Resources:

<Enter>キーをクリックすると、サブメニューに入ります。

このアイテムは、各システム割り込みを[PCI デバイス]または [予約済み]に設定します。



☞ PnP/PCI Configurations Setup Menu に戻ります:

PCI/VGA Palette Snoopy:

このアイテムは、MPEG ISA/VESA VGA カードが PCI/VGA で作動できるかどうかを決定します。

[Enabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは、PCI/VGA で作動できます。

[Disabled]: MPEG ISA/VESA VGA カードは PCI/VGA で作動しません。

Allocate IRQ To Video :

このアイテムは、取り付けられた VGA カードの IRQ を割り当てます。

[Enabled] : 取り付けられた VGA カードの IRQ を自動的に割り当てます。

[Disabled] : VGA カードによって以前に占有された IRQ は、新しいデバイスでも使用できます。

Allocate IRQ To USB

このアイテムは、接続されている USB デバイスに対して IRQ を割り当てます。

[Enabled]: 接続されている USB デバイスに対して IRQ を自動的に割り当てます。

[Disabled]: 接続されている USB デバイスによって以前占有されていた IRQ は、新しいデバイスに対して利用できます。

PCI Latency Timer(CLK):

このオプションでは、時間の量のコントロールを選択できるようになっており、ICH2 アービタは PCI イニシエータが PCI バス上で複数のトランザクションを連続して実行することを可能にしています。

PIRQ 0 Use IRQ No. ~PIRQ 3 Use IRQ No. :

このアイテムは、PCI スロットに取り付けたデバイスの IRQ 番号を自動または手動で指定します。

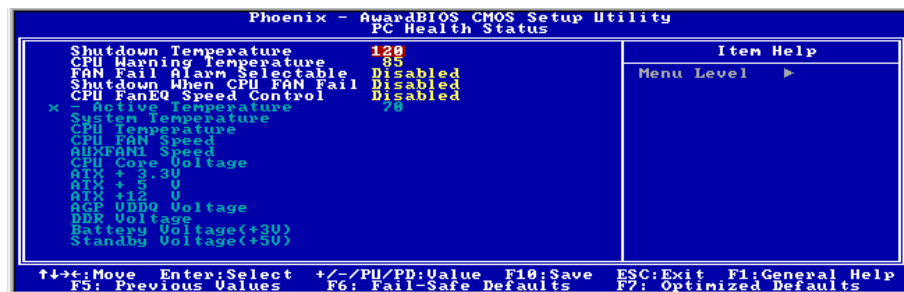
PIRQ (VIA VT8237 チップセットからの信号)、INT# (PCI スロット IRQ 信号のことです) のハードウェアレイアウト間の関係については、下の表を参照してください。

| 信号 | AGP | LAN | PCI-1 | PCI-2 | PCI-3 | PCI-4 | PCI-5 | SATA |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| PIRQ_0 割り当て | INT A | INT A | INT A | INT D | INT C | INT B | INT A | |
| PIRQ_1 割り当て | INT B | | INT B | INT A | INT D | INT C | INT B | INT A |
| PIRQ_2 割り当て | | | INT C | INT B | INT A | INT D | INT C | |
| PIRQ_3 割り当て | | | INT D | INT C | INT B | INT A | INT D | |
| PIRQ_4 割り当て | | | | | | | | |
| PIRQ_5 割り当て | | | | | | | | |
| PIRQ_6 割り当て | | | | | | | | |
| PIRQ_7 割り当て | | | | | | | | |

注意 :

- PCI スロット 1 は PCI スロット 5、AGP スロット、LAN で IRQ 信号を共有。
- 同時に 1 つの IRQ を共有するこれらの PCI スロットに 2 枚の PCI カードを取り付けたい場合、OS と PCI デバイスのドライバが IRQ 共有機能をサポートしていることを確認する必要があります。

3-8. PC Health Status



Shutdown Temperature:

このアイテムは、システムが過熱しないようにシステムを自動的に停止する温度を設定します。

注：このアイテムは ACPI 有効の OS でのみ有効です。

CPU Warning Temperature:

このアイテムは、CPU の警告温度の限界を選択します。システムが CPU の温度が限界を超えていることを検出すると、警告音が鳴ります。

注：オンボードハードウェア監視機能は、これらのシステムヘルス状態を検出できます。異常な状態が発生したとき、警告メッセージを表示したり警告アラームを鳴らしたい場合、“ハードウェアドクター”ユーティリティをインストールする必要があります。このユーティリティは本マザーボードに付属する“ドライバとユーティリティ CD”に含まれています。

FAN Fail Alarm Selectable:

このアイテムは、誤動作を監視するファンを選択します。

Shutdown When CPU FAN Fail:

[Enabled] (使用可能) に設定していると、システムは CPU ファンが作動していないときに停止します。

注：このアイテムは ACPI 有効の OS でのみ有効です。

CPU FanEQ Speed Control:

このアイテムによって、CPU のファン速度を特定のパーセンテージに下げようように制御できます。

特定のパーセンテージに設定されているとき、アイテム「動作温度」で設定されている温度制限を超えない場合、CPU のファン速度はこのアイテムで設定したパーセンテージで動作します。

CPU のファン速度は、アイテム「動作温度」で設定されている温度制限を超える場合、この制限で設定されたパーセンテージには関わらず、100%で動作します。

※ **Active Temperature:**

この項目は、「CPU FanEQ 速度コントロール」オプションの機能をアクティブにする温度の上限を設定します。

All Voltages, Fans Speed and Thermal Monitoring:

CPU と環境の温度、ファンの回転速度、システムの電源の電圧を表示します。これらの値は変更できません。

注: 温度、ファンの回転速度、電圧を測定するためのハードウェア監視機能を有効にする場合は、294H から 297H までの I/O アドレスを使用します。ネットワークアダプタ、サウンドカード、またはこれらの I/O アドレスを使用する可能性のあるアドオンカードが装着されている場合は、競合を避けるためにアドオンカードの I/O アドレスを調整してください。

3-9. Load Fail-Safe Defaults

このオプションはデフォルトの BIOS 値をロードして、最も安定した、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

3-10. Load Optimized Defaults

このオプションは、出荷時のデフォルトの BIOS 設定をロードして、最適のシステムパフォーマンスを実現します。

3-11. Set Password

このオプションは BIOS 構成を保護したり、コンピュータへのアクセスを制限します。

3-12. Save & Exit Setup

このオプションは選択を保存して BIOS セットアップメニューを終了します。

3-13. Exit Without Saving

このオプションは、変更を保存せずに BIOS セットアップメニューを終了します。



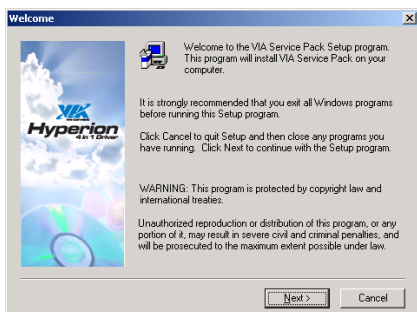
付録 A. VIA 4-in-1 ドライバのインストール

注：Windows オペレーティングシステムをインストールした後、まず VIA 4-in-1 ドライバをインストールしてください。

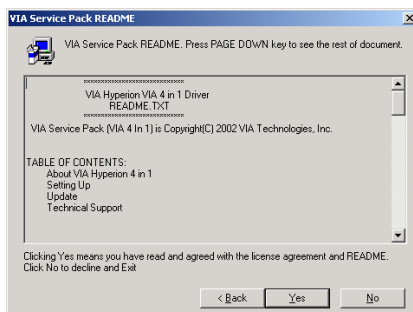
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows 2000 オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

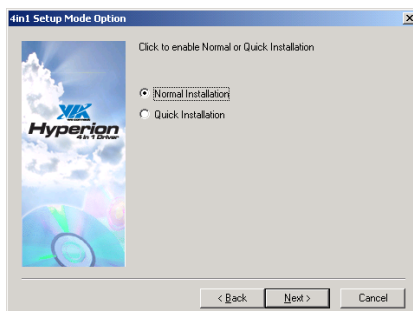
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[VIA 4in1 ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



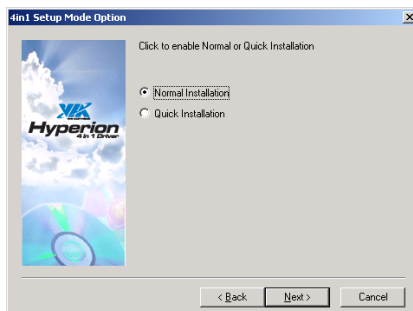
1. [次へ] をクリックします。



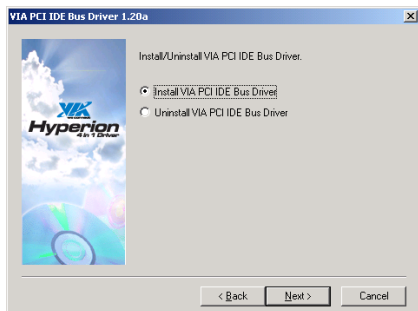
2. [はい] をクリックします。



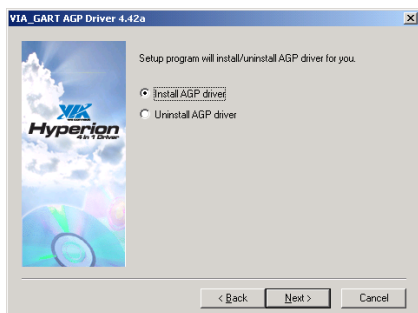
3. [次へ] をクリックします。



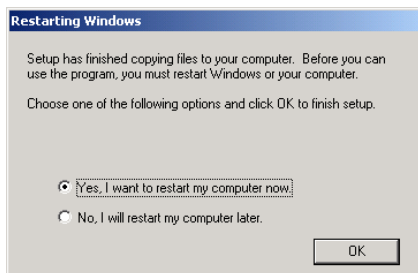
4. [次へ] をクリックします。



5. [次へ] をクリックします。



6. [次へ] をクリックします。



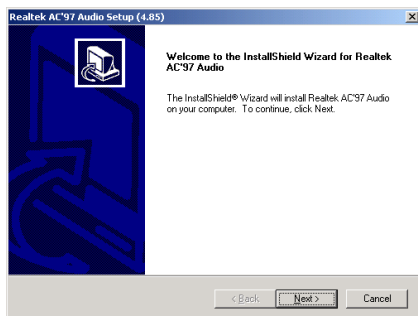
7. [はい、今すぐコンピュータを再起動します] を選択されるようお勧めします。[終了] をクリックしてインストールを終了します。

付録 B. オーディオドライバのインストール

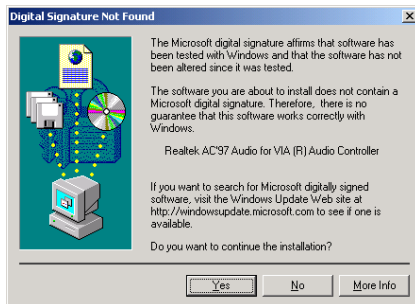
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows 2000 オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

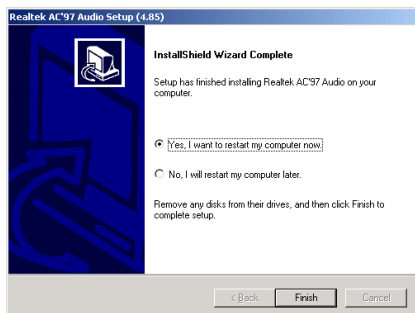
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[オーディオ ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



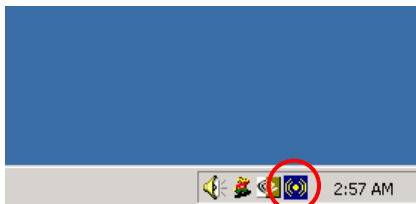
1. [次へ] をクリックします。



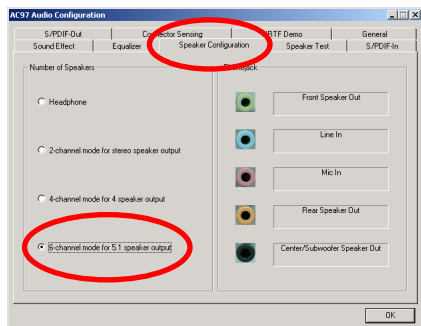
2. [はい] をクリックします。



3. [はい、今コンピュータを再起動します] を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。



4. システムが再起動した後、タスクバーの右隅にショートカットアイコンが表示されます。



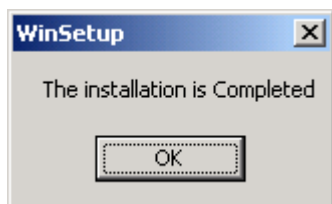
5. このスピーカー構成タブで、[5.1 スピーカー出力用の 6 チャンネルモード] ボックスにチェックマークを入れて 6 チャンネルオーディオシステムを使用可能に設定します。

付録 C. LAN ドライバのインストール

本項のインストール手順と画面ショットは、Windows 2000 オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[LAN ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



1. [OK] をクリックします。



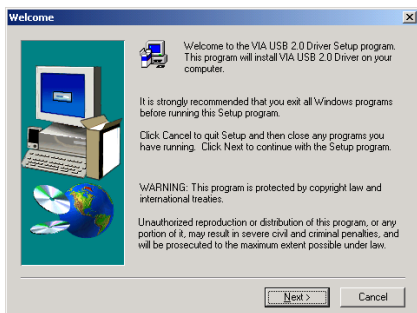
付録 D. VIA USB 2.0 ドライバのインストール

注: Service Pack 1 をすでにインストールしている場合、Windows XP オペレーティングシステムの VIA USB 2.0 ドライバをインストールする必要はありません。Windows update を起動して最新の Service Pack を入手してください。

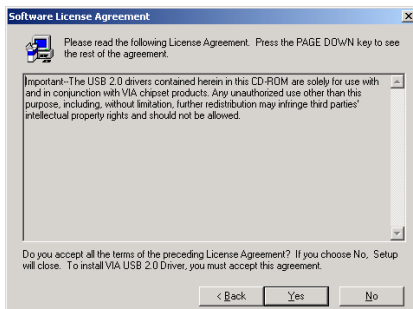
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows 2000 オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンからの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

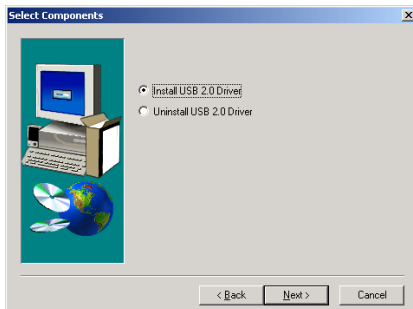
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[VIA USB 2.0 ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



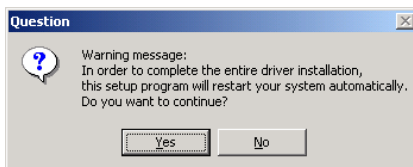
1. [次へ] をクリックします。



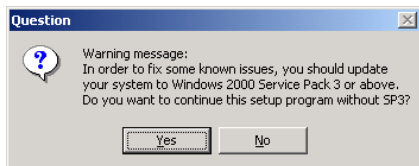
2. [はい] をクリックします。



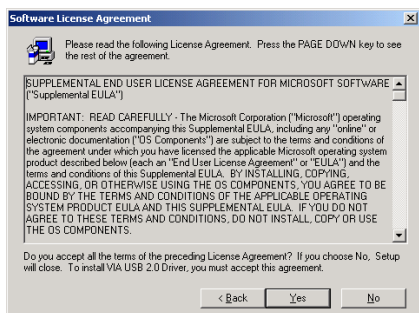
3. [次へ] をクリックします。



4. [はい] をクリックします。



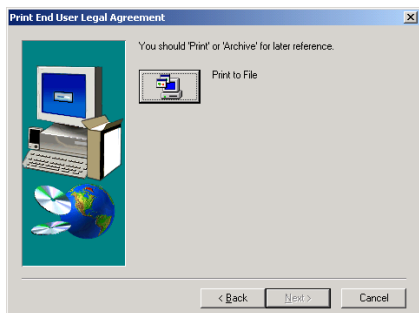
5. [はい] をクリックします。



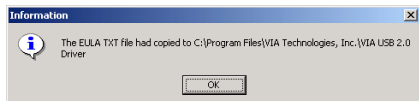
6. [はい] をクリックします。



7. [OK] をクリックします。



8. [ファイルへの印刷] をクリックします。



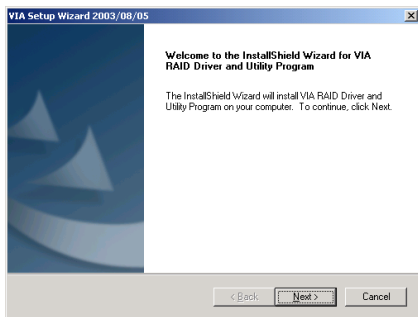
9. [OK] をクリックします。

付録 E. シリアルATA RAID ドライバのインストール

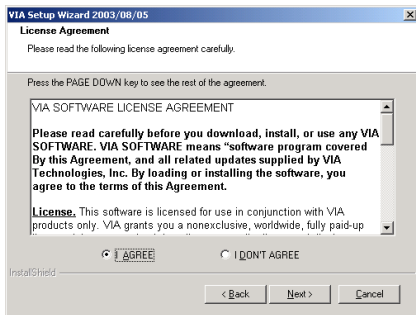
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows 2000 オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

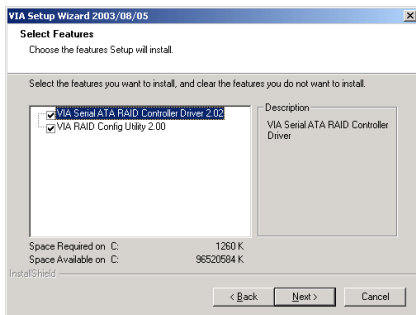
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ドライバ]タブに移動します。[VIA SATA RAID ドライバ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



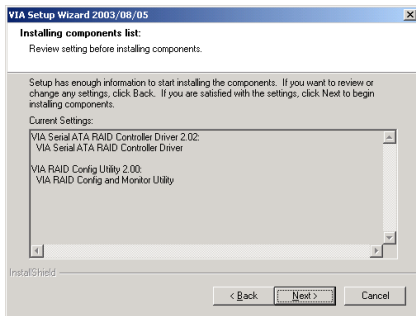
1. [次へ] をクリックします。



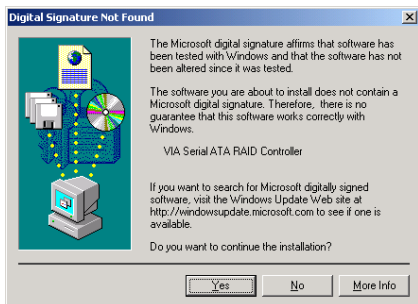
2. [次へ] をクリックします。



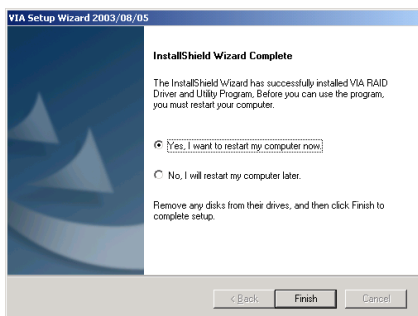
3. [次へ] をクリックします。



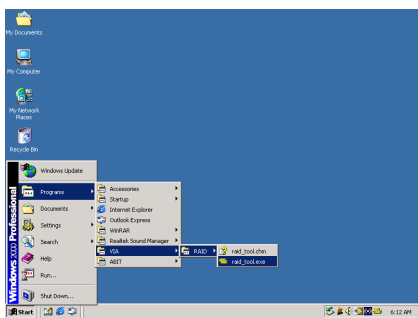
4. [次へ] をクリックします。



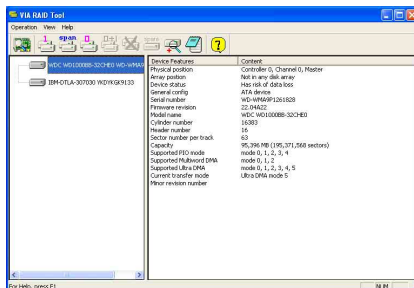
5. [はい] をクリックします。



6. [はい、今コンピュータを再起動します] を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。



7. [VIA RAID Tool] アプリケーションを実行するには、[スタート] → [プログラム] → [VIA] → [RAID] をクリックします。



8. これは SATALink 構成メニューです。操作方法の詳細については、“ヘルプ”メニューを参照してください。

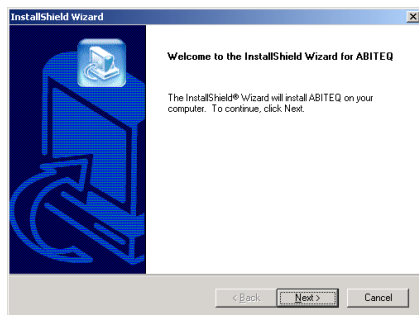
付録 F. ABIT EQ (Hardware Doctor ユーティリティ)

ABIT EQ は、ABIT Computer 社により開発されたマザーボードに基づく PC の自己診断システムです。電圧やシステムファン速度、CPU およびシステム温度などの重要アイテムを監視することにより、PC ハードウェアを保護する役割を果たします。

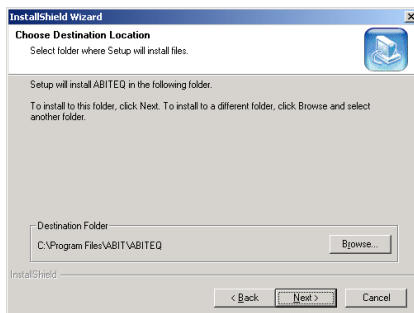
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows 2000 オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンからの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

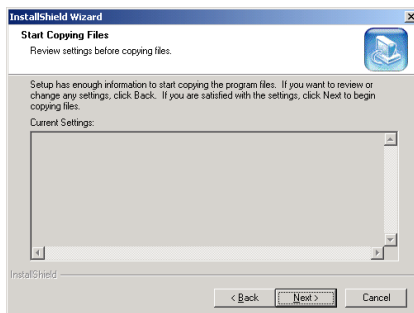
インストールメニューに入ったら、カーソルを[ABIT Utility]タブに移動します。[ABIT EQ]をクリックしてください。次の画面が表示されます。



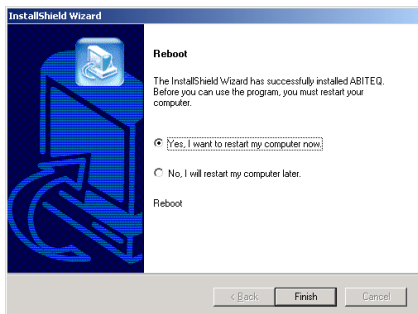
1. [次へ>] をクリックします。



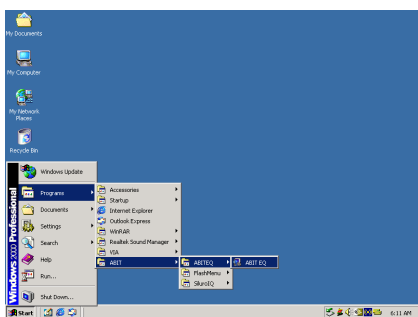
2. [次へ>] をクリックします。



3. [次へ>] をクリックします。



4. [はい、今コンピュータを再起動します]を選択し、[終了]をクリックしてインストールを終了します。



5. Windows ツールバーをポイントしてを ABIT EQ 実行し、[スタート] → [プログラム] → [ABIT] → [ABIT EQ] を順にクリックします。



6. この画面が表示されます。ABIT EQ は電圧、ファン速度、温度の状態を表示します。(ここで記載された画面のアイテム名は参考です。実際の画面とは異なる場合があります。)

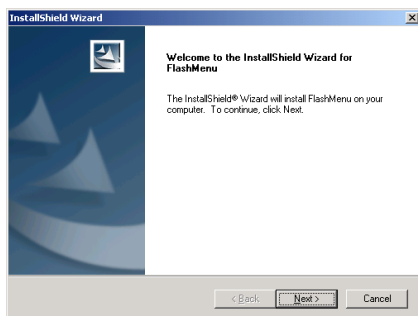
付録 G. FlashMenu (BIOS 更新ユーティリティ)

ABIT FlashMenu は最も安定性の高い Windows-based BIOS フラッシュです。クラッシュの心配はありません。BIOS 更新の 1 クリックで、より簡単に、手間をかけずに BIOS フラッシュを実行することができます。

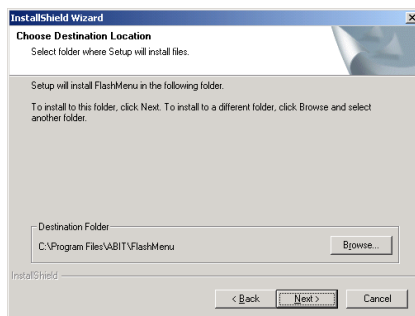
本項のインストール手順と画面ショットは、Windows 2000 オペレーティングシステムに基づいています。その他の OS のインストール手順と画面ショットについては、その OS のオンスクリーンからの指示に従ってください。

ドライバとユーティリティ CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に実行します。自動的に実行しない場合、この CD のルートディレクトリで実行ファイルをダブルクリックし、インストールメニューに入ってください。

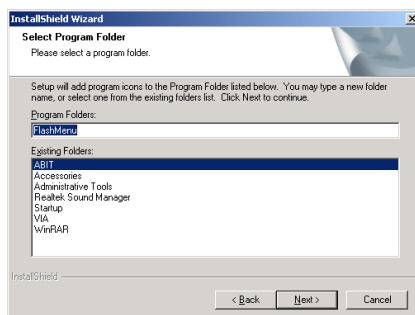
インストールメニューに入ったら、カーソルを [ABIT Utility] タブに移動します。[FlashMenu] をクリックしてください。次の画面が表示されます。



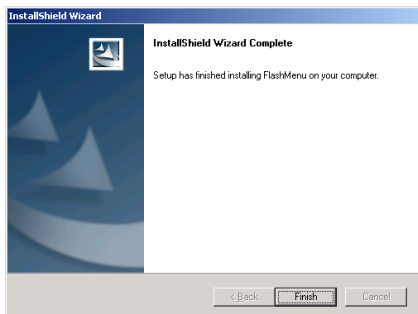
1. [次へ>] をクリックします。



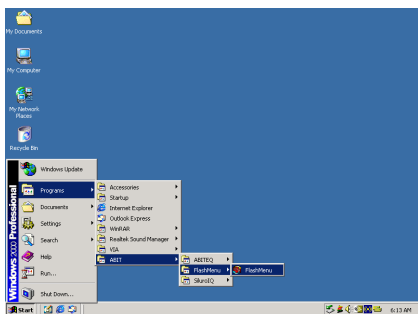
2. [次へ>] をクリックします。



3. [次へ>] をクリックします。



4. [終了]をクリックしてインストールを終了します。



5. Windows ツールバーをポイントしてを FlashMenu 実行し、[スタート] → [プログラム] → [ABIT] → [FlashMenu] を順にクリックします。



6. このような FlashMenu 画面が表示されます。[Update From File]、[One Click LiveUpdate]、または [LiveUpdate Step by Step] ボタンをクリックして BIOS を簡単に更新することができます。

付録 H. トラブルシューティング

Q & A:

Q: 新しい PC システムを組み立てるときに CMOS をクリアする必要がありますか?

A: はい、新しいマザーボードを装着する際に、CMOS をクリアすることを強くお勧めします。CMOS ジャンパをデフォルトの 1-2 のポジションから 2-3 のポジションに移し、2,3 秒待ち、そして元に戻してください。システムをはじめて起動するとき、ユーザーズマニュアルを参照し、Load Optimized Default を呼び込んでください。

Q: BIOS 更新中にハングアップしてしまったり、間違った CPU パラメータを設定してしまった場合にはどうしたらよいでしょうか?

A: BIOS 更新の失敗や、CPU パラメータ設定間違いによるシステムのハングアップするときは、常に CMOS クリアを行ってサイド起動させてみてください。

Q: 機械の電源を切ったすぐ後に、システムが起動しないのですが?

A: 電源を切った後は、最低 30 秒間待ってから再度電源を入れてください。

Q: BIOS 内部でオーバークロックまたは非標準の設定を試みると、システムを起動できず、画面に何も表示されません。メインボードが故障したのですか? メインボードを販売店に返却する必要がありますか、または RMA プロセスを行うべきですか?

A. 一部の BIOS 設定をデフォルトからオーバークロックまたは非標準の状態に変更しても、ハードウェアまたはメインボードが永久的に損傷する原因とはなりません。当社では、次の 3 つのトラブルシューティングによって CMOS データを放電し、ハードウェアのデフォルトの状態に回復するようにお勧めします。これにより、メインボードが再び機能し、ユーザーの方がわざわざメインボードをお買い上げ時点の設定に戻したり、RMA プロセスを実行する必要はなくなります。

1. 電源装置の電源をオフにし、1 分後に再びオンにします。電源がオンにならない場合、電源コードを抜いて 1 分後に差し込んでください。キーボードの<Insert>キーを押したまま、電源オンボタンを押してシステムを起動します。正常に起動したら、<Insert>キーを離し、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って正しい設定を行います。それでも問題が解決しない場合、ステップ 1 を 3 度繰り返すか、ステップ 2 を試みてください。
2. 電源装置の電源をオフにするか電源コードを抜いて、シャーシを開けます。電池の傍に CCMOS ジャンパがあります。ジャンパ位置をデフォルトの 1-2 から 2-3 に 1 分間変更して CMOS データを放電し、再びデフォルトの 1-2 に戻します。シャーシを閉じ、電源装置の電源をオンにするか、電源コードを差し込みます。電源オンボタンを押して、システムを起動します。正常に起動したら、<Delete>キーを押して BIOS セットアップページに入って、正しい設定を行います。それでも問題が解決しない場合、ステップ 3 を試みてください。
3. ステップ 2 と同じ手順で、メインボードから ATX 電源コネクタを抜き、CMOS が放電している間にメインボードの電池を取り外します。

Q: テクニカルサポートからの迅速な回答をえるにはどうしたらよいですか?

A: このマニュアルの章にある、テクニカルサポートフォームの記述内容に従って記述してください。

動作に問題がある場合、弊社のテクニカルサポートチームが問題をすばやく特定して適切なアドバイスができるよう、テクニカルサポート用紙には、問題に関係のない周辺機器を記入せず、重要な周辺機器のみを記入してください。記入後は、テクニカルサポートから回答を得られるよう、製品を購入したディーラーまたは販売店に Fax してください（下の例を参照してください）。

例 1： マザーボード（CPU、DRAM、COAST などを含む）、HDD、CD-ROM、FDD、VGA CARD、VGA カード、MPEG カード、SCSI カード、サウンドカードなどを含むシステムが起動できない場合、以下の手順に従ってシステムの主なコンポーネントをチェックしてください。最初に、VGA カード以外のすべてのインタフェースカードを取り外して再起動してください。

それでも起動しない場合：

他のブランドまたはモデルの VGA カードをインストールして、システムが起動するかどうかが試してみてください。それでも起動しない場合は、テクニカルサポート用紙（主な注意事項参照）に VGA カードのモデル名、マザーボードのモデル名、BIOS の ID 番号、CPU の種類を記入し、「**問題の説明**」欄に問題についての詳しい説明を記入してください。

起動する場合：

取り除いたインタフェースカードを 1 つ 1 つ元に戻しながら、システムが起動しなくなるまでシステムの起動をチェックしてください。VGA カードと問題の原因となったインタフェースカードを残して、その他のカードおよび周辺機器を取り外して、システムを再び起動してください。それでも起動しない場合、「その他のカード」の欄に 2 枚のカードに関する情報を記入してください。なお、マザーボードのモデル名、バージョン、BIOS の ID 番号、CPU の種類（主な注意事項参照）、および問題についての詳しい説明を記入するのを忘れないでください。

例 2： マザーボード（CPU、DRAM、COAST などを含む）、HDD、CD-ROM、FDD、VGA カード、LAN カード、MPEG カード、SCSI カード、サウンドカードなどを含むシステムで、サウンドカードのドライバのインストール後、システムを再起動したり、サウンドカードのドライバを実行したりすると自動的にリセットしてしまう場合、問題はサウンドカードのドライバにあるかもしれません。DOS の起動の途中で、SHIFT キーを押して CONFIG.SYS と AUTOEXEC.BAT を省略してください。また、テキストエディタで CONFIG.SYS を修正してください。サウンドカードのドライバをロードする行にリマーク REM を追加すると、サウンドカードのドライバを OFF にできます。下の例をご覧ください。

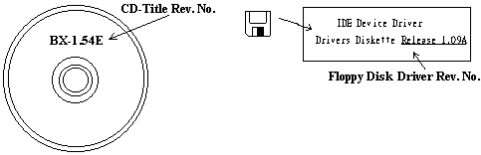
```
CONFIG.SYS:
DEVICE=C:\DOS\HIMEM.SYS
DEVICE=C:\DOS\EMM386.EXE HIGHSCAN
DOS=HIGH, UMB
FILES=40
BUFFERS=36
REM DEVICEHIGH=C:\PLUGPLAY\DWCFMG.SYS
LASTDRIVE=Z
```

システムを再起動してみてください。システムが起動してリセットしない場合、問題はサウンドカードのドライバにあることがわかります。テクニカルサポート用紙（主な注意事項参照）にサウンドカードのモデル名、マザーボードのモデル名、BIOS の ID 番号を記入し、「問題の説明」欄に詳しい説明を記入してください。


テクニカルサポートフォームの記述の仕方について説明します。


主な注意事項...


[テクニカルサポート用紙] に必要事項を記入する場合、次の注意事項を守ってください。

- 1* **モデル名** : ユーザーマニュアルに記されているモデル名を記入します。
例 : VT7
- 2* **マザーボードのモデル番号 (REV)** : マザーボードに [REV:*]**] と記されているマザーボードのモデル番号を記入してください。
例 : REV: 1.01
- 3* **BIOS ID および部品番号** : オンスクリーンのメッセージをご覧ください。
4. **ドライババージョン** : デバイスドライバのディスク (もしあれば) に [Release *.*]**] などと記されているバージョン番号を記入します。

- 5* **OS/アプリケーション** : 使用している OS およびシステムで起動しているアプリケーションを記入します。
例 : MS-DOS® 6.22、Windows® 95、Windows® NT...
- 6* **CPU** : CPU のメーカー名および速度 (MHz) を記入します。
例 : (A) [メーカー名] の欄には [Intel]、[仕様] の欄には [Pentium® 4 1.9GHz] と記入します。
7. **HDD** : HDD のメーカー名、仕様、IDE1 および IDE2 のどちらで使用しているかを記入します。ディスク容量がわかる場合には容量を記入し、 をチェック (“✓”) してください。チェックがない場合は、IDE1] マスターとみなします。
例 : [HDD] の欄のボックスをチェックし、メーカー名には [Seagate]、仕様の欄には [ST31621A (1.6GB)] と記入します。
8. **CD-ROM ドライブ** : CD-ROM ドライブのメーカー名、仕様、IDE1 および IDE2 のどちらで使用しているかを記入します。また、“” をチェック (“✓”) してください。チェックがない場合は、“IDE2” マスターとみなします。
例 : “CD-ROM ドライブ” の欄のボックスをチェックし、メーカー名には “Mitsumi”、仕様の欄には “FX-400D” と記入します。
9. **システムメモリ (DDR SDRAM)** : システムメモリのブランドと、密度、説明、モジュールコンポーネント、モジュール部品番号、CAS レイテンシ、速度 (MHz) のような、仕様 (DDR DIMM) を示します。たとえば、ブランドスペースに、「Micron」と記述し、仕様スペースに以下のように記述します。
密度: 128MB、説明: SS 16 Megx72 2.5V ECC ゴールド、モジュールコンポーネント: (9) 16 Megx 8、モジュール部品番号: MT9VDDT1672AG、CAS レイテンシ: 2、速度 (MHz): 200 MHz。
お使いの DDR SDRAM の詳細な情報をお知らせください。発生した問題をシミュレートする上で大いに役に立ちます。
10. **その他のカード** : 問題に関係しているのが “絶対確実である” カードを記入します。
問題の原因が特定できない場合は、システムに搭載しているすべてのカードを記入してください。


注意 : [*] の項目は必ず記入してください。


 テクニカルサポート用紙

 会社名：

 電話番号：

 連絡先：

 ファックス番号：

 E-mail：

| | | | |
|-------------------|-------------------------------|-----------|---|
| モデル名 | * | BIOS ID # | * |
| マザーボードの モデル番号 | | ドライババージョン | |
| OS/アプリケーション | * | | |
| | | | |
| ハードウェア名 | メーカー名 | 仕様 | |
| CPU | * | | |
| HDD | <input type="checkbox"/> IDE1 | | |
| | <input type="checkbox"/> IDE2 | | |
| CD-ROM ドライブ | <input type="checkbox"/> IDE1 | | |
| | <input type="checkbox"/> IDE2 | | |
| システムメモリ (DRAM) | | | |
| その他のカード | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

問題の説明：

付録 I. テクニカルサポートの受け方について

(ホームページ) <http://www.abit.com.tw>

(米国) <http://www.abit-usa.com>

(ヨーロッパ) <http://www.abit.nl>

ABIT 社の製品をお買い上げいただきありがとうございます。ABIT はディストリビュータ、リセラー、システムインテグレータを通じて製品を販売させていただいておりますため、エンドユーザの皆様へ直接製品を販売することはありません。弊社テクニカルサポート部へお問い合わせいただく前に、お客様のシステムを構築したリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせいただく方が、より適切なアドバイスを受けることができます。

ABIT ではお客様に常に最高のサービスを提供したいと願っております。弊社はお客様への迅速な対応を最優先に考えておりますが、毎日世界各国からの電話や電子メールによる問い合わせが殺到しておりますため、すべてのご質問にお答えすることができない状況です。したがって、電子メールでお問い合わせいただきましてもご返答できない場合がありますので、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

ABIT は最高の品質と互換性の高い製品を提供するために、互換性や信頼性に関するテストを重ねております。万一サービスやテクニカルサポートが必要となりました場合には、**まずリセラーかシステムインテグレータにお問い合わせください。**

できるだけ早く問題を解決するために、以下に説明します処理を行っててください。それでも問題を解決できない場合には、弊社のテクニカルサポートへお問い合わせください。より多くのお客様に、より質の高いサービスを提供するために、皆様のご協力をお願いします。

1. **マニュアルをお読みください。** マニュアルの作成には万全の注を払って、どなたにもお分かりいただけるように説明してあります。意外と簡単なことを見落としている場合もありますので、再度マニュアルをよくお読みください。マニュアルにはマザーボード以外についても重要な情報が記載されています。マザーボードに同梱されている CD-ROM には、ドライバのほかにもマニュアルの電子ファイルも格納されています。必要であれば、弊社の Web サイトまたは FTP サーバより、ファイルをダウンロードすることもできます。
2. **最新の BIOS、ソフトウェア、ドライバをダウンロードしてください。** 弊社の Web サイトをご覧ください。バグや互換性に関わる問題が修正された最新バージョンの BIOS をダウンロードしてください。また周辺機器のメーカーにお問い合わせになり、**最新バージョンのドライバをインストールしてください。**

3. **Web サイト上の専門用語集および FAQ（よく聞かれる質問）をお読みください。**
弊社では今後も引き続き FAQ を充実させていく予定です。皆様のご意見をお待ちいたしております。また新しいトピックにつきましては、HOT FAQ をご覧ください。
4. **インターネットニュースグループをご利用ください。** ここには貴重な情報が数多く寄せられます。ABIT Internet News グループ (alt.comp.peripherals.mainboard.abit) はユーザどうしで情報を交換したり、それぞれの経験を語り合ったりするために設置されたフォーラムです。たいいていの場合、知りたい情報はこのニュースグループ上にすでに記載されています。これは一般に公開されているインターネットニュースグループであり、無料で参加することができます。ほかにも次のようなニュースグループがあります。

alt.comp.peripherals.mainboard.abit
alt.comp.peripherals.mainboard
comp.sys.ibm.pc.hardware.chips
alt.comp.hardware.overclocking
alt.comp.hardware.homebuilt
alt.comp.hardware.pc-homebuilt
5. **リセラーへお問い合わせください。** 技術的な問題につきましては、ABIT が認定したディストリビュータにお尋ねください。弊社の製品はディストリビュータからリセラーや小売店へ配送されます。リセラーはお客様のシステムの構成内容をよく理解していますので、お客様が抱える問題をより効率よく解決できるはずです。お客様が受けられるサービス内容によって、お客様が今後もそのリセラーと取り引きを続けていきたいかどうかを判断する材料にもなります。万一問題を解決できない場合は、状況に応じて何らかの対応策が用意されているはずです。詳しくはリセラーにお尋ねください。
6. **ABIT へお問い合わせください。** ABIT へ直接お尋ねになりたいことがございましたら、テクニカルサポート部へ電子メールをお送りください。まず、お近くの ABIT 支店のサポートチームにお問い合わせください。地域の状況や問題、またリセラーがどのような製品とサービスを提供しているかは、地域により全く異なります。ABIT 本社には毎日世界各国から膨大な量の問い合わせが殺到しておりますため、すべてのお客様のご質問にお答えすることができない状況です。弊社ではディストリビュータを通じて製品を販売いたしておりますため、すべてのエンドユーザの皆様へサービスを提供することができません。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。また、弊社のテクニカルサポート部に質問をお寄せになる際は、問題点を英語でできるだけ分かりやすく、簡潔に記載していただき、必ずシステム構成部品のリストしてください。お問い合わせ先は次の通りです。

北米および南米：**ABIT Computer (U.S.A.) Corporation**

45531 Northport Loop West,
Fremont, California 94538, U.S.A.

電話番号：1-510-623-0500

ファックス番号：1-510-623-1092

sales@abit-usa.com

technical@abit-usa.com

<http://www.abit-usa.com>

英国およびアイルランド：**ABIT Computer (U.K.) Corporation Ltd.**

Unit 3, 24-26 Boulton Road,
Stevenage, Herts SG1 4QX, U.K.

電話番号：44-1438-228888

ファックス番号：44-1438-226333

sales@abitcomputer.co.uk

technical@abitcomputer.co.uk

ドイツ、ベネルクス諸国（ベルギー、オランダ、ルクセンブルグ）、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、スイス：

AMOR Computer B.V. (ABIT のヨーロッパ事務所)

Van Coehoornstraat 7,
5916 PH Venlo, The Netherlands

電話番号：31-77-3204428

ファックス番号：31-77-3204420

sales@abit.nl

technical@abit.nl

<http://www.abit.nl>

オーストリア、チェコ、ルーマニア、ブルガリア、ユーゴスラビア、スロバキア、スロベニア、クロアチア、ボスニア、セルビア、および マスドニア：

Asguard Computer Ges.m.b.H

Schmalbachstrasse 5,
A-2201 Gerasdorf/Wien, Austria

電話番号：43-1-7346709

ファックス番号：43-1-7346713

asguard@asguard.at

日本：**ABIT Computer (Japan) Co. Ltd.**

ファックス番号：81-3-5396-5110

<http://www.abit4u.jp>

上海：**ABIT Computer (Shanghai) Co. Ltd.**

電話番号：86-21-6235-1829

ファックス番号：86-21-6235-1832

<http://www.abit.com.cn>

ロシア：**ABIT Computer (Russia) Co. Ltd.**

ファックス番号：7-095-937-2837

techrussia@abit.com.tw

<http://www.abit.ru>

フランス、イタリア、スペイン、ポルトガル、およびギリシャ：

ABIT Computer France SARL

電話番号：33-1-5858-0043

ファックス番号：33-1-5858-0047

<http://www.abit.fr>

その他のすべてのテリトリは上ではカバーされていません。以下にお問合せください：台湾本部：

当社の本部に連絡するときは、当社の所在地が台湾にあり、8+ GMT 時間を採用していることにご注意ください。さらに、お客様の国とは異なる休日も採用しています。

ABIT Computer Corporation

No.323, Yang Guang St., Neihu, Taipei, 114, Taiwan

電話番号：886-2-8751-8888

ファックス番号：886-2-8751-3382

sales@abit.com.tw

market@abit.com.tw

technical@abit.com.tw

<http://www.abit.com.tw>

7. **RMA サービスについて。**新しくソフトウェアやハードウェアを追加していないのに、今まで動いていたシステムが突然動かなくなった場合は、コンポーネントの故障が考えられます。このような場合は、製品を購入されたリセラーにお問い合わせください。RMA サービスを受けることができます。
8. **互換性に関する問題がある場合は ABIT へご一報ください。**弊社に寄せられるさまざまな質問の中でも ABIT が特に重視しているタイプの質問があります。互換性に関する問題もその1つです。互換性がないために問題が発生していると思われる場合は、システムの構成内容、エラーの状態をできるだけ詳しくお書きください。その他のご質問につきましては、申し訳ございませんが直接お答えできない場合があります。お客様がお知りになりたい情報は、インターネットニュースグループにポストされていることがありますので、定期的にニュースグループをお読みください。
9. 下記は、参考としてのチップセットベンダの Web サイトアドレスです。

HighPoint Technology Inc.WEB サイト: <http://www.highpoint-tech.com/>

Intel WEB サイト: <http://www.intel.com/>

Silicon Image WEB サイト: <http://www.siimage.com/>

SiS WEB サイト: <http://www.sis.com.tw/>

VIA WEB サイト: <http://www.via.com.tw/>

ありがとうございました。

ABIT Computer Corporation

<http://www.abit.com.tw>